

(様式第 9)

産医大収第 120646 号
平成 24 年 10 月 4 日

九州厚生局長 殿

学校法人産業医科大学
開設者名 理事長 海野 孝

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	173人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	351人	5人	351.9人	看護補助者	73人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	1人	12.4人	理学療法士	10人	臨床検査技師	45人
薬剤師	28人	0人	28.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.人	視能訓練士	3人	その他	人
助産師	28人	0人	28.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	661人	11人	669.0人	臨床工学技士	10人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	0人	0人	0.人	栄養士	0人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	76人
管理栄養士	4人	0人	4.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	25人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	516人	5人	521人
1日当たり平均外来患者数	1511人	60人	1571人
1日当たり平均調剤数			1062剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・インプラント義歯	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	1人
・超音波骨折治療法	0人
・単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断(リアルタイムPCR法)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	PCRを用いたニューモシスチス肺炎の診断(第1内科)	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 PCR法を用い、患者の誘発喀痰検体から抽出した微量のDNAを増幅し、Pneumocystis jiroveci DNAの検出に基づく診断を行う技術である。 特に膠原病・リウマチの治療に伴う日和見感染症としてのニューモシスチス肺炎を早期に診断して治療開始することにより、予後の著しい向上を得ている。			
医療技術名	持続皮下血糖測定システム(CGMS)を用いた血糖測定(第1内科)	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 糖尿病患者腹部に刺したセンサーが間質液から5分毎に糖濃度の平均値によって血糖値を算出する技術である。1つのセンサーで最大3日間連続測定が可能で、機器をはずしてPCにデータを送ると、蓄積した測定データからその日の血糖推移のグラフが作成できる。これによりインスリン療法、経口剤を用いた血糖コントロールは言うまでもなく血糖推移のグラフを見せることで患者教育においても著しい効果を発揮している。			
医療技術名	自己免疫疾患に対する免疫吸着療法(第1内科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 抗DNA抗体をはじめとする自己抗体高値の膠原病(SLE、MCTD)等に関して自己抗体に特異的な吸着カラムを用いた体外循環により自己抗体の除去を行なう。 既に産生された自己抗体の物理的除去は、免疫抑制剤との併用により高い効果をもたらしている。			
医療技術名	敗血症性ショックに対するポリミキシン吸着療法(第1内科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 敗血症性ショック(エンドトキシンショック)の患者に対して、エンドトキシンに特異的な吸着カラムを用いた体外循環により、エンドトキシンの除去を行い、敗血症性ショック、呼吸器障害を改善させる。			
医療技術名	既存治療抵抗性SLEに対する抗CD20抗体療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 既存治療抵抗性全身性エリテマトーデスに対して抗CD20抗体リツキシマブによるB細胞除去を行い、非常に高い疾患活動性を抑制し臓器障害を回避しえた。			
医療技術名	リンパ球表面P糖蛋白発現解析による自己免疫疾患のオーダーメイド治療(第1内科)	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 自己免疫疾患の疾患活動性、治療抵抗性を末梢血リンパ球表面上のP糖蛋白の発現により評価し、治療方針の決定に応用するものである。B、Tリンパ球にわけて評価することにより、免疫抑制療法の選択を行いオーダーメイド治療に役立っている。			
医療技術名	自己免疫疾患による活動性間質性肺炎に対するウリナスタチンパルス療法(第1内科)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 強力な免疫抑制療法の継続が困難な自己免疫疾患に伴う活動性間質性肺炎に対して、ウリナスタチンのパルス療法を施行し、感染の誘発などを認めることなく、症状、CT所見などの改善を得ている。			
医療技術名	エンドパットを用いた血管内皮機能検査(第1内科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 エンドパットを用いて糖尿病患者における内皮機能を検討。エンドパットは左右の指尖脈波の同時計測・比較によって血管内皮反応を測定・記録することができる装置である。			
医療技術名	16SrRNA遺伝子を用いた網羅的な細菌叢解析(呼吸器内科)	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要 細菌のみが保有する16SrDNA遺伝子を用いて、検体中の細菌DNAのクローンライブラリーを作製し、それぞれの塩基配列を決定することにより、検体中にどんな細菌がどれくらい存在するかを把握可能であり、感染症診療に役立つ。			
医療技術名	経皮的エタノール注入療法(第3内科)	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 迅速な組織の脱水固定作用をもち、かつ毒性の少ないエタノールを超音波誘導下に細い穿刺針を用いて肝腫瘍内に注入することにより、腫瘍を壊死させる治療法である。原則として、腫瘍径3cm以下、腫瘍数3病変以下の症例を適応としている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	経皮経肝的胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 経皮経肝的に超音波誘導下に胆管を穿刺し、ドレナージチューブを胆管内に挿入し留置する手技。胆道閉鎖の減黄や、急性化膿性閉鎖性胆管炎に対する緊急ドレナージとして施行している。肝内胆管拡張のみられない例に対しては、経皮経肝的胆嚢ドレナージ(PTGBD)も施行している。			
医療技術名	経皮経肝的膿瘍ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 PTBDの手技に準じ、肝膿瘍内にドレナージチューブを挿入・留置し、ドレナージをはかっている。			
医療技術名	内視鏡的逆行性胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	68人
当該医療技術の概要 経乳頭的に胆管を造影し、閉塞部位を確認した後それに引き続いてガイドワイヤーを用い狭窄部を通過させ、ワイヤーガイド下にドレナージチューブ下にドレナージチューブを胆管内に留置する。主として悪性胆道閉塞例に対し、長いドレナージチューブを留置して、経鼻的に外瘻とする内視鏡手的経鼻胆管ドレナージ(ENBD)を施行している。			
医療技術名	胆管ステント留置術(第3内科)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 患者のQOLを考慮し、根治手術不能な悪性胆道閉塞に対してメタリックステントを用いて施行している。最近ではポリウレタンでメタリックステントをカバーしたcovered stentを用いている。			
医療技術名	経皮敵ラジオ波焼却療法(第3内科)	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要 Radiofrequency ablation(RFA)と呼ばれる治療法は、マイクロ波より周波数の低いラジオ波(460~480KHz)を用いて、腫瘍組織内に熱を発生させ、破壊する方法。超音波誘導下に経皮的に腫瘍部に穿刺する。			
医療技術名	白血球除去療法(第3内科)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎の活動期における緩解促進のための顆粒球吸着用白血球除去カラムを使用し、吸着型の血液浄化をする方法。			
医療技術名	超音波内視鏡下吸引針生検(EUS-FNA)(第3内科)	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 膵癌や消化管粘膜下腫瘍に対して、病理学的診断材料に係る目的にて行っている。			
医療技術名	内視鏡的経乳頭胆管生検(第3内科)	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 胆道癌の確定診断のために経乳頭的に生検鉗子を挿入し、透視下に場所を確認し、生検する方法で、従来のブラッシング細胞診に比べ陽性率向上が期待される。			
医療技術名	内視鏡的粘膜剥離術(第3内科)	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要 主に胃癌を内視鏡的に切除する方法で、従来の粘膜の切除と比較して、大型の病変を一括に切除できる。現在15mm以上の病変で、この方法により治療している。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法(神経・精神科)	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要 主に難治性うつ病患者を対象に中央手術室において全麻下で電気けいれんを施行する。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	集団精神療法(神経・精神科)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 うつ病及び統合失調症者に対する心理教育			
医療技術名	非血縁臍帯血移植(小児科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 難治性白血病に対する臍帯血バンクを利用した臍帯血移植			
医療技術名	血縁骨髄移植(小児科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 難治性白血病や難治性の悪性固形腫瘍に対する血縁間での骨髄移植			
医療技術名	自家末梢血造血幹細胞移植(小児科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児がんに対する大量化学療法施行時の併用造血幹細胞移植			
医療技術名	遊離空腸食道再建術(第1外科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 喉頭、頸部食道全摘後に空腸片を採取して、頸部血管と空腸部静脈を吻合(血行再建)し、咽頭空腸、空腸食道を吻合する。			
医療技術名	単孔式内視鏡手術(第1外科)	取扱患者数	195人
当該医療技術の概要 スコープや鉗子などの手術器具を1ヶ所の切開創から挿入して行う術式。整容上の利点などがあり、胆のう摘出術の他、総胆管切石術、肝部分切除術、胃局所切除術等を行っている。			
医療技術名	非小細胞肺癌に対するMAGE-A3がん免疫療法(第2外科)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌患者を対象とした術後補助療法としてのAS15アジュバント添加、MAGE-A3がん免疫療法剤の有効性を評価するための、二重盲検、無作為化、プラセボ対照、第Ⅲ相臨床試験として施行している。MAGE-A3がん免疫療法により肺癌術後の再発の抑制を期待している。			
医療技術名	慢性疼痛疾患に対する脊髄電気刺激療法(脳神経外科)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 中枢神経疾患にともなう慢性の体幹及び四肢の疼痛に対して脊髄硬膜外に電極を設置して疼痛を電気刺激により治療する。			
医療技術名	四肢痙性に対するバクロフェン注入療法(脳神経外科)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 種々の中枢性疾患により四肢の痙性が強くなり、関節拘縮などにより運動機能障害をきたす。これらの状態に対して、脊髄髄腔内にバクロフェンを体内に埋め込んだ微量注入ポンプからバクロフェンを注入して治療する。			
医療技術名	脳腫瘍手術における脳機能マッピング(脳神経外科)	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 脳腫瘍(突発性)はあらゆる脳の部位に発生するが、運動、言語などの領域に発生すると摘出する際、重大な後遺症を残す。術中に運動野や言語野を電気刺激してこれらの部位をさけて摘出を行うことで術後の障害を防ぐ。			
医療技術名	術中腫瘍の蛍光診断(脳神経外科)	取扱患者数	41人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍、特に神経膠腫の予後ほどこまで手術中に摘出できたかに左右される。腫瘍細胞に術前5-ALA(蛍光色素を発生する薬物)を投与し、術中に光をあてることによって発生する蛍光で残存腫瘍をできる限り取り除く。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	金属材料を用いた脊柱再建固定術(整形外科)	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 <p>脊椎の外傷や変性、または脊椎の腫瘍により脊椎が不安定になり、脊椎の障害(下肢麻痺)や耐え難い疼痛などを発症する。これらの患者に対しては金属材料を用いて強固な内固定をすることにより、疼痛や麻痺が改善され、しかも術後早期に離床が可能となる。</p>			
医療技術名	頚椎前方固定術、頚椎椎弓形成術(整形外科)	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 <p>頚椎症性脊髄症に対して、我々は頚椎椎弓形成術(椎弓を両開きとして、椎弓を温存し、脊柱管を拡大する)を中心とする後方除圧を目的とした後方進入法と、前方固定術(椎間板切除と骨棘切除し、椎体間を固定する)を中心とした前方除圧を目的とした前方進入法を行っている。</p>			
医療技術名	術中ナビゲーションを用いた脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 <p>リウマチや脳性麻痺患者などに生じた高度な頚椎不安定症に対し、固定力の強固な椎弓根や椎間関節スクリューを用いた後方固定術を行っているが、スクリュー刺入には危険を伴い高度な技術を要する。我々はより安全にスクリュー刺入を行うために、術中ナビゲーションを使用している。また、高度な靭帯骨化(後縦靭帯や黄色靭帯)の除圧操作においてもナビゲーションを用いてより正確により安全に手術操作を実施している。</p>			
医療技術名	内視鏡を用いた低侵襲脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 <p>腰椎椎間板ヘルニアに対し、我々は内視鏡を用いたヘルニア摘出術を行っている。従来のヘルニア手術に比べ侵襲が少なく、術後回復も早い。また、内視鏡を用いることで、より正確な手術操作が可能となる。</p>			
医療技術名	人工股関節(セメントレス)、骨盤骨切り(RAO)(整形外科)	取扱患者数	107人
当該医療技術の概要 <p>社会の高齢化に伴い、関節の退行変性による変形性股関節症症例が増加してきている。我々は、本症に対してセメントレス人工股関節を行っている。本邦では、二次性の変形性股関節症が多く、特に臼蓋形成不全によるものが、約80%を占める。臼蓋形成不全に対しては、骨盤回転骨切り(RAO)を行っている。</p>			
医療技術名	マイクロサージャリー、手関節鏡手術(整形外科)	取扱患者数	63人
当該医療技術の概要 <p>外傷による手指の神経、血管損傷、皮膚欠損に対して顕微鏡下での縫合術を行っている。手関節内の三角線維軟骨損傷や滑膜炎に対しては、手関節鏡視下に処置を行い、最小侵襲による確実な処置で早期の社会復帰を目指している。</p>			
医療技術名	前十字靭帯再建術(整形外科)	取扱患者数	63人
当該医療技術の概要 <p>近年、スポーツ活動が盛んになるに従い、膝関節の外傷も増加している。靭帯損傷の中でも前十字靭帯損傷は頻度が高く、放置すればスポーツ活動に支障をきたし変形性関節症も進行する。この前十字靭帯損傷に対し我々は小さな創で大きな可動域と安定性を獲得すべく半腱様筋、薄筋腱を用いた鏡視下靭帯再建術を行っている。</p>			
医療技術名	股関節鏡視下手術(整形外科)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 <p>Femoroacetabular impingement syndromeと呼ばれる股関節における臼蓋と大腿骨頭～頸部にかけてのインピンジメントは変形性股関節症を惹起しうる病態と考えられている。これに対し股関節鏡視下にインピンジメントを解除するため、臼蓋および大腿骨頭部のトリミング、股関節唇の修復を行なっている。</p>			
医療技術名	肩関節鏡視下関節制動術(整形外科)	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 <p>反復性肩関節脱臼の患者は肩関節の関節唇が損傷され、また関節包が弛緩している。これらを鏡視下に修復することで関節の制動を獲得する手術を関節鏡視下に行っている。</p>			
医療技術名	肩関節鏡視下腱板修復術(整形外科)	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 <p>肩関節腱板損傷に対して従来はMcLaulin法などのOpenでの修復術が行われていたが、当院では肩関節周囲筋の侵襲を軽減でき、スムーズな後療法を実現するために関節鏡視下にアンカーを用いて修復術を行っている。</p>			
医療技術名	脊椎靭帯骨化症に対する脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 <p>後縦靭帯骨化症や黄色靭帯骨化症は特定疾患に指定されている難病である。靭帯の骨化増大により脊柱管内が狭小化し脊髄圧迫をきたして運動機能が著しく損なわれている方には除圧術や骨化除去、骨化浮上などの手術的治療を行い脊髄機能、運動機能の改善に取り組んでいる。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	脊椎損傷、脊髄腫瘍に対する手術(整形外科)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 転移性脊椎損傷や原発性脊椎腫瘍に対して完全摘出を目的とした脊椎全摘出術や脊髄機能の回復を目的とした除圧固定術を行っている。また脊髄腫瘍に対しては顕微鏡視下に腫瘍摘出術を行っている。			
医療技術名	単純疱疹ウイルス感染症または水疱帯状疱疹(皮膚科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 患者水疱から、DNAを単離し、Real-Time PCR法を行うことにより、短時間で確定診断が可能である。			
医療技術名	遊離空腸移植による食道再建(形成外科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 耳鼻科、消化器科における下咽頭癌手術後の食道再建を遊離空腸移植によって行う。			
医療技術名	遊離空腸移植による食道再建(形成外科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 耳鼻科、消化器科における下咽頭癌手術後の食道再建を遊離空腸移植によって行う。			
医療技術名	前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘出術(泌尿器科)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 従来、限局性前立腺癌に対して開腹による前立腺全摘出術を施行してきたが、創痛や出血など患者に対する負担が大きな手術であった。今回、我々は腹腔鏡下で、より低侵襲な前立腺全摘出術を行っている。開腹術と比較し合併症も遜色なく、良好な結果を得ており患者の満足度も向上している。			
医療技術名	突発性難聴(難病)の鼓室内ステロイド注入(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 突発性難聴は主に、一側性の急激な高度感音性難聴を来す疾患であり、時にめまいをともなう。その原因についていまだ定説はない。しかし、原因がいずれにしても内耳の酸素摂取量を増加させることは障害された内示の代謝の改善、組織の修復等に寄与すると考えられる。本院においては、上記疾患に対し、鼓室内ステロイド注入を施行して、好成績をおさめている。			
医療技術名	睡眠時無呼吸症候群の診断と治療(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	193人
当該医療技術の概要 睡眠時無呼吸症候群は最近一層注目されてきた疾患である。当院では関連検査機器を整備して、この疾患の診断と治療を行っている。睡眠時無呼吸症候群の診断にあたってはその重症度と原因部位診断について留意して検査を行い加療の指針としている。			
医療技術名	選択的動注法による抗癌剤投与療法(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 癌組織へ選択的に且つ高濃度の抗癌剤を投与する選択的動注法では、殺腫瘍効果の増強と副作用の軽減が期待できる。頭頸部領域では主に上顎癌や舌・口腔底癌において、この選択的動注法の使用が考えられる。本院においては、浅側頭動脈より逆行性にチューブを挿入し、上顎癌と舌癌においてこの選択的動注法を行っている。			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激治療(リハビリテーション科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 維持期脳卒中患者に対し、経頭蓋的に磁気刺激を行うことで、健側大脳の興奮性を抑え、障害側大脳の機能代償を増大させ、上肢の機能向上を図る。			
医療技術名	経頭蓋直流電気刺激下ロボット支援訓練(リハビリテーション科)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 維持期脳卒中患者に対し、経頭蓋直流電気刺激を行った後、上肢ロボット訓練(アームトレーナー)を行い、麻痺側上肢の運動機能改善を図る。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	歩行支援ロボット訓練(リハビリテーション科)	取扱患者数	20人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>歩行支援ロボット(安川電機)は、4本のロボットアームで下肢を動かし、歩行訓練を行う訓練機器であり、急性期脳卒中の重度片麻痺患者などに本訓練を行うことで、下肢筋力や歩行能力の改善が期待できる。</p>			
医療技術名	骨髄移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	6人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、健全な骨髄を移植することにて治療を目指す。</p>			
医療技術名	末梢血幹細胞移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、末梢血より得られた造血幹細胞を移植することにて治療を目指す。</p>			
医療技術名	臍帯血移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、臍帯血を移植し、臍帯血中の造血幹細胞及び免疫細胞にて治療を目指す。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	86人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	49人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・重症筋無力症	78人	・原発性胆汁性肝硬変	39人
・全身性エリテマトーデス	281人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	5人	・特発性大腿骨頭壊死症	27人
・再生不良性貧血	38人	・混合性結合組織病	51人
・サルコイドーシス	65人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・特発性間質性肺炎	30人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	168人	・網膜色素変性症	27人
・特発性血小板減少性紫斑病	40人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	41人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	125人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	4人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	21人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	48人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	58人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	64人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	200人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	10人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2人
・後縦靭帯骨化症	49人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	27人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	13人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	21人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	20人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	50人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	・
・膀胱水圧拡張術	・
・鏡視下肩峰下腔除圧術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 37 例 / 部検率 14.30%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ストレスに対するホメオサーベランスのダイナミクスと疾患制御	田中 良哉	第1内科学	8,800,000	補委 文部科学省科学研究費
関節リウマチ患者単球系細胞に対するJAK3阻害剤の新規薬効解明と投薬法の開発	山岡 邦宏	第1内科学	800,000	補委 文部科学省科学研究費
膠原病疾患の組織リモデリングにおける上皮・血管内皮-間葉転換機構解明と治療展開	齋藤 和義	第1内科学	1,800,000	補委 文部科学省科学研究費
膠原病の活動性間質性肺炎へのウリナスタチン大量間歇投与の効果解析と治療法の構築	辻村 静代	第1内科学	1,800,000	補委 文部科学省科学研究費
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業	田中 良哉	第1内科学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性克服研究事業	田中 良哉	第1内科学	800,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	田中 良哉	第1内科学	200,000	補委 厚生労働省科学研究費
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業	平田 信太郎	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	田中 良哉	第1内科学	1,500,000	補委 厚生労働省科学研究費
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業	田中 良哉	第1内科学	24,700,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	齋藤 和義	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
僧帽弁腱索断裂症例における非断裂部テザリングによる逆流の増悪	尾辻 豊	第2内科学	600,000	補委 文部科学省科学研究費
マルチスライスCTによる大動脈弁および弁周囲組織の非侵襲的評価-心エコーとの比較	津田 有輝	第2内科学	400,000	補委 文部科学省科学研究費
慢性心不全症例に対する運動負荷三次元心エコー図検査による評価の有用性	芳谷 英俊	第2内科学	2,202,000	補委 文部科学省科学研究費
透析患者における薬剤溶出ステントの効果・再狭窄の原因及びその予知マーカーの検討	園田 信成	第2内科学	2,200,000	補委 文部科学省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
老人性大動脈弁狭窄症における僧帽弁輪・弁尖への石灰化進展による僧帽弁狭窄の合併	竹内 正明	第2内科学	2,822,000	補 委 文部科学省科学研究費
メタボリック症候群における細胞外スーパーオキシドジスムターゼの役割に関する研究	亀崎 文彦	第2内科学	1,500,000	補 委 文部科学省科学研究費
実地臨床におけるエベロリムス溶出性ステント(XIENCE V)とシロリムス溶出性ステント(CYPHER)の有効性及び安全性についての多施設前向き無作為オープンラベル比較試験(RESET)	尾辻 豊	第2内科学	720,000	補 委 財団法人生産開発科学研究所
実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステント(BES)とエベロリムス溶出性ステント(EES)の有効性及び安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験(NEXT)	尾辻 豊	第2内科学	560,000	補 委 財団法人生産開発科学研究所
蛋白・脂質代謝異常による小胞体ストレスを伴う肝細胞障害でのオートファジーの役割	原田 大	第3内科学	1,222,000	補 委 文部科学省科学研究費
手技のオートメーション化を目指した内視鏡ロボットの開発	久米恵一郎	第3内科学	1,732,000	補 委 文部科学省科学研究費
がん臨床研究事業	原田 大	第3内科学	150,000	補 委 厚生労働省科学研究費
早期糖尿病の進展抑制に関する無作為化比較臨床試験	原田 大	第3内科学	50,000	補 委 日本糖尿病進展抑制研究会
網羅的細菌叢解析を用いた細菌性肺炎における起因菌のエビデンスの構築	迎 寛	呼吸器内科学	1,600,000	補 委 文部科学省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	迎 寛	呼吸器内科学	250,000	補 委 厚生労働省科学研究費
医療技術実用化総合研究事業	迎 寛	呼吸器内科学	2,300,000	補 委 厚生労働省科学研究費
心因性発熱に関与する脳内部位の解明	林 晴男	神経内科学	600,000	補 委 文部科学省科学研究費
他者比較における自己評価:摂食障害を対象とした機能画像研究	兒玉 直樹	神経内科学	795,000	補 委 文部科学省科学研究費
慢性の痛み対策研究事業	魚住 武則	神経内科学	1,300,000	補 委 厚生労働省科学研究費
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	赤松 直樹	神経内科学	1,000,000	補 委 厚生労働省科学研究費

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性疾患克服研究事業	辻 貞俊	神経内科学	500,000	補委 厚生労働省科学研究費
遺伝子型に基づくカルバマゼピンのオーダーメイド投薬検証に関する前向き臨床研究	赤松 直樹	神経内科学	50,000	補委 (独)理化学研究所 横浜研究所 ゲノム医科学研究センター
てんかんの診断と治療に関する戦略的医療についての研究	辻 貞俊	神経内科学	1,150,000	補委 精神・神経疾患研究開発費
多様化した気分障害患者に関する画像・分子薬理学的研究	中村 純	精神医学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
うつ病に対する運動療法の効果メカニズムに関する画像・精神薬理学的検討	杉田 篤子	精神医学	900,000	補委 文部科学省科学研究費
気分障害の病態解明と診断治療法の開発に関する研究	吉村 玲児	精神医学	2,000,000	補委 精神・神経疾患研究開発費
精神・神経疾患のバイオマーカーの探索と臨床応用に関する研究	吉村 玲児	精神医学	1,500,000	補委 精神・神経疾患研究開発費
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	吉村 玲児	精神医学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	中村 純	精神医学	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費
小児期急性脳症の早期診断および予後予測に関する多施設共同研究	楠原 浩一	小児科学	700,000	補委 文部科学省科学研究費
胎児期に起因する生活習慣病発症における脳末梢連関の異常と生後の栄養介入による予防	山本 幸代	小児科学	2,044,000	補委 文部科学省科学研究費
非遺伝性周期性発熱症候群におけるバイオマーカーの検討と病態の解明	佐藤 哲司	小児科学	1,931,000	補委 文部科学省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	楠原 浩一	小児科学	1,600,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	楠原 浩一	小児科学	500,000	補委 厚生労働省科学研究費
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業(難病関係研究分野)	荒木 俊介	小児科学	750,000	補委 厚生労働省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん臨床研究事業	山口 幸二	第1外科学	150,000	補委 厚生労働省科学研究費
悪性胸膜中皮腫に対する特異的免疫療法の構築	宗 哲哉	第2外科学	600,000	補委 文部科学省科学研究費
石綿関連肺癌に対する腫瘍抗原の探索と診断及び治療への応用	安田 学	第2外科学	900,000	補委 文部科学省科学研究費
肺癌における発癌過程の腫瘍不均一形成に関する因子の解析	浦本 秀隆	第2外科学	900,000	補委 文部科学省科学研究費
肺癌所属リンパ節における制御性T細胞の意義と免疫抑制機構の解除	花桐 武志	第2外科学	1,576,000	補委 文部科学省科学研究費
呼吸器悪性腫瘍における自家がん特異的免疫応答を利用した新規腫瘍抗原の同定	竹之山光広	第2外科学	1,592,000	補委 文部科学省科学研究費
肺癌の免疫逃避の解明とその克服法の検討	重松 義紀	第2外科学	1,356,000	補委 文部科学省科学研究費
がん臨床研究事業	田中 文啓	第2外科学	700,000	補委 厚生労働省科学研究費
クモ膜下出血後の脳血管攣縮に対する蛋白リン酸化酵素Cをターゲットにした創薬の研究	西澤 茂	脳神経外科学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
悪性脳腫瘍における光感受性物質の放射線感受性増強効果の検討	山本 淳考	脳神経外科学	800,000	補委 文部科学省科学研究費
アルコール及び脂肪摂取による骨・骨髄機能連関障害の解明と防止法の開発	中村 利孝	整形外科	2,300,000	補委 文部科学省科学研究費
荷重の増減による間葉系幹細胞から骨・血管・脂肪への分化調節機構の解明とその制御	酒井 昭典	整形外科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
遺伝子改変動物を用いた外傷および関節炎における疼痛・ストレス反応の分子基盤の解明	大西 英生	整形外科	700,000	補委 文部科学省科学研究費
変形性関節症の関節変性と骨棘形成機構の解明—時間・組織特異的KOマウスによる解析	中村英一郎	整形外科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
医療技術実用化総合研究事業	西澤 茂	脳神経外科学	700,000	補委 厚生労働省科学研究費

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
「低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究」(低侵襲手術支援システムの脳神経外科領域における臨床研究)	西澤 茂	脳神経外科学	400,000	補 委 研究開発施設共用等促進費補助金(橋渡し研究支援)
自己炎症性疾患TRAPSモデルマウス作製と新規治療法の開発	中村 元信	皮膚科学	1,665,000	補 委 文部科学省科学研究費
悪性黒色腫におけるPD-1関連免疫抑制とケモカイン受容体関連転移修飾	日野 亮介	皮膚科学	1,200,000	補 委 文部科学省科学研究費
慢性金属アレルギーの誘発と内因性アトピー性皮膚炎の病態との関与	森 智子	皮膚科学	1,300,000	補 委 文部科学省科学研究費
表皮角化細胞の獲得免疫前抗原応答	小林 美和	皮膚科学	800,000	補 委 文部科学省科学研究費
光線過敏症におけるナイアシンを介した皮膚免疫応答の解明	杉田 和成	皮膚科学	1,790,000	補 委 文部科学省科学研究費
シェーグレン症候群の外分泌腺異常における上皮-間葉転換の意義と新規治療法の開発	廣正 佳奈	皮膚科学	1,300,000	補 委 文部科学省科学研究費
腎細胞癌における新規VHL関連蛋白の発見とその分子間相互作用と細胞応答の究明	吉田 毅	泌尿器科学	666,000	補 委 文部科学省科学研究費
膀胱痛および膀胱機能の中樞性制御におけるTRPチャネルの役割の解明	小林 瑞	泌尿器科学	1,130,000	補 委 文部科学省科学研究費
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	松本 哲朗	泌尿器科学	500,000	補 委 厚生労働省科学研究費
光学的視覚刺激装置の開発と調節緊張緩和と近視の予防に関する研究	岩崎 常人	眼科学	600,000	補 委 文部科学省科学研究費
小児網膜剥離の疾患概念の構築:Coats病の病因解明	近藤 寛之	眼科学	1,300,000	補 委 文部科学省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	近藤 寛之	眼科学	1,500,000	補 委 厚生労働省科学研究費
中耳真珠腫組織における水素イオン濃度と水素イオンセンサー蛋白からみた骨吸収機序	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科学	900,000	補 委 文部科学省科学研究費
アレルギー性鼻炎におけるTh2サイトカイン制御因子としてのZNF143の機能解析	若杉 哲郎	耳鼻咽喉科学	900,000	補 委 文部科学省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
構造的転写共役因子を分子標的とした婦人科悪性腫瘍治療と薬剤耐性機構の解明	蜂須賀 徹	産婦人科学	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
癌の温熱療法における絶縁体を用いた深部加温領域の最適化	大栗 隆行	放射線科学	1,700,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
外科的侵襲が免疫能抑制、臓器障害をおこす機序の解明とその制御法の開発	川崎 貴士	麻酔科学	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
癌性疼痛に対する新たな鎮痛薬開発を目指したATP受容体に関する疼痛機序の解明	佐多 竹良	麻酔科学	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
新しい神経障害性疼痛治療薬としてのカリウムチャンネル開口薬の行動薬理学的研究	原 幸治	麻酔科学	719,000	補委 文部科学省科学研究費
ATP感受性カリウムチャンネル開口薬の鎮痛作用に関する行動薬理学的研究	原西 保典	麻酔科学	1,688,000	補委 文部科学省科学研究費
選択的Naチャンネル阻害薬の開発を目指した、吸入麻酔薬・鎮痛薬の作用機序解析	堀下 貴文	麻酔科学	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
ラット疼痛モデルを用いたポリフェノールの鎮痛作用に関する研究	中村 元洋	麻酔科学	600,000	補委 文部科学省科学研究費
全身麻酔薬の作用機序解明を目指したTRP受容体に対する全身麻酔薬の影響解析	寺田 忠徳	麻酔科学	800,000	補委 文部科学省科学研究費
カーボン長下肢装具がポリオ罹患者の歩行効率を改善する要因の研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	800,000	補委 文部科学省科学研究費
上肢訓練ロボットを用いた訓練が脳賦活に及ぼす影響	小田 太士	リハビリテーション医学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
脳卒中片麻痺上肢に対する経頭蓋直流刺激下ロボット補助訓練の効果	佐伯 覚	リハビリテーション医学	300,000	補委 文部科学省科学研究費
反復経頭蓋磁気刺激による失語症治療効果と脳活動パターン変化に関する検討	岡崎 哲也	リハビリテーション医学	1,900,000	補委 文部科学省科学研究費
高次脳機能障害を有する外傷性脳損傷者に対する長時間作業時の注意力変化	岩永 勝	リハビリテーション医学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
頭部挙上訓練が嚥下障害を有する維持期脳卒中患者の嚥下内圧に及ぼす影響	高橋 真紀	リハビリテーション医学	2,400,000	補委 文部科学省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ポリオ後症候群発症と酸化ストレスの関係	松嶋 康之	リハビリテーション医学	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,800,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
強毒株クロストリディウム・デフィシル菌アウトブレイク防止体制構築についての研究	芳川 一郎	内視鏡部	688,000	補委 文部科学省科学研究費
新規細胞膜エストロゲン受容体の作動薬の検索とその抗ストレス効果	高橋浩二郎	薬剤部	1,356,000	補委 文部科学省科学研究費
労働安全衛生総合研究事業	永田 智久	産業医実務研修センター	3,428,000	補委 厚生労働省科学研究費
労働安全衛生総合研究事業	森 晃爾	産業医実務研修センター	7,423,000	補委 厚生労働省科学研究費
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	森 晃爾	産業医実務研修センター	3,600,000	補委 厚生労働省科学研究費
労働安全衛生総合研究事業	堤 明純	産業医実務研修センター	400,000	補委 厚生労働省科学研究費
労働安全衛生総合研究事業	森 晃爾	産業医実務研修センター	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費
がん臨床研究事業	森 晃爾	産業医実務研修センター	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費
妊婦の環境由来化学物質への曝露が胎盤栄養素輸送機能に与える影響の研究	柴田英治	特定教育研究プロジェクト担当教員	6,914,000	補委 環境省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計13 計103

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
九州リウマチ 31:1-6 (2011年4月)	アバタセプトの関節リウマチ治療における位置づけ.	齋藤 和義	第1内科学
九州リウマチ 31:7-11 (2011年4月)	JAK阻害薬.	山岡 邦宏	第1内科学
The Journal of Immunology. 186:3745-3752 (2011年4月)	Dopamine induces IL-6-dependent IL-17 production via D1-like receptor on CD4 naive T cells and D1-like receptor antagonist SCH-23390 inhibits cartilage destruction in a human rheumatoid arthritis/SCID mouse chimera model.	Nakano,K	第1内科学
リウマチ科 45:76-80 (2011年4月)	関節リウマチにおけるインスリン抵抗性とレプチン.	西田 啓子	第1内科学
臨床免疫・アレルギー科 55:247-254 (2011年4月)	ドパミン産生樹状細胞によるTh17細胞の誘導.	中野 和久	第1内科学
Diabetes Journal. 39:21-27 (2011年4月)	膵切除術後の難治性低血糖にジアゾキサイドが著効した膵島過形成の1例.	新生 忠司	第1内科学
Mod Rheumatol. 21:184-191 (2011年4月)	Efficacy of combination therapy of anti-TNF- α antibody infliximab and methotrexate in refractory entero-Beh	Tanaka,Y	第1内科学
Mod Rheumatol. 21:122-133 (2011年4月)	Efficacy and tolerability of tocilizumab in rheumatoid arthritis patients seen in daily clinical practice in Japan: results from a retrospective study (REACTION study).	Tanaka,Y	第1内科学
Osteoporosis Japan 19:39-44 (2011年4月)	関節リウマチ患者の骨の健康を守るために新規抗リウマチ薬が骨に及ぼす効果.	田中 良哉	第1内科学
Bone Joint Nerve. 1:134-139 (2011年4月)	新規抗リウマチ薬.	田中 良哉	第1内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
整形・災害外科. 54:320-321 (2011年 4月)	B細胞を標的とした関節リウマチの制御.	田中 良哉	第1内科学
Eur J Radiol. 81:1335-1339 (2011年 4月)	Thin-section chest CT findings in systemic lupus erythematosus with antiphospholipid syndrome: A comparison with systemic lupus erythematosus antiphospholipid syndrome.without	Tanaka,Y	第1内科学
Osteoporosis Japan. 19:236-239 (2011年 4月)	当院におけるベルト式ヒッププロテクターへの導入の評価—院内転倒による大腿部頸部骨折の減少に向けて—.	田中 良哉	第1内科学
内科 107:679-685 (2011年 4月)	生物学的製剤の副作用とその対策	中野 和久	第1内科学
J Rheumatol 38:633-641 (2011年 4月)	Phenotypic changes of lymphocytes in patients with systemic lupus erythematosus who are in longterm remission after B cell depletion therapy with rituximab	Iwata,s.	第1内科学
J UOEH 33:173-181 (2011年 5月)	全身性エリテマトーデスのB細胞標的治療.	田中 良哉	第1内科学
THE BONE. 25:43-48 (2011年 5月)	B細胞を標的とした抗体療法.	田中 良哉	第1内科学
Biol Pharm Bull. 34:1011-1020 (2011年 5月)	Evaluation of Intestinal Microbiotas of Healthy Japanese Adults and Effect of Antibiotics Using the 16S Ribosomal RNA Gene Based Clone Library Method.	Morotomi,N	第1内科学
Inflammation and Regeneration. 31:237-244 (2011年 5月)	Jak and Syk:Emerging their relevance to the treatment of inflammatory diseases.	Tanaka,Y	第1内科学
Hepato Res. 41:492-496 (2011年5月)	Case of severe liver damage after the induction of tocilizumab therapy for rheumatoid ascutitis.	齋藤 和義	第1内科学

10件
20件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arthritis Rheum. 63:1658-1667 (2011年 6月)	Human mesenchymal stem cells inhibit osteoclastogenesis through osteoprotegerin production.	Yamaoka.K	第1内科学
産業看護. 3:55-57 (2011年 6月)	関節リウマチ.	齋藤 和義	第1内科学
リウマチ科. 45:277-284 (2011年 6月)	SLEの抗B細胞療法の進歩.	田中 良哉	第1内科学
Arthritis. 9:74-79 (2011年 6月)	関節リウマチにおけるTreat to Target.	田中 良哉	第1内科学
Arthritis. 9:80-81 (2011年6月)	なぜ今X線撮影が重要なのか？.	田中 良哉	第1内科学
内科. 107:1417-1422 (2011年6月)	関節リウマチ患者の関節外症状に生物学的製剤は有効か？	徳永美貴子	第1内科学
糖尿病. 54:425-429 (2011年6月)	アログリプチンとボグリボースの併用効果を持続血糖モニターで確認できた1例.	森 博子	第1内科学
臨床免疫・アレルギー科. 55:608-611 (2011年 6月)	マスト細胞の補体による活性化.	澤向 範文	第1内科学
Medical Practice. 28:1160-1168 (2011年 7月)	膠原病の治療指針と治療に伴う合併症の予防と治療.	田中 良哉	第1内科学
日本内科学会雑誌. 100:1978-1986 (2011年7月)	関節リウマチ診療のパラダイムシフト.	田中 良哉	第1内科学

10件

30件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Rheumatol. 38:1258-1264 (2011年 7月)	Incidence and Risk Factors for Serious Infection in Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Tumor Necrosis Factor Inhibitors: A Report from the Registry of Japanese Rheumatoid Arthritis Patients for Longterm Safety.	Saito,K	第1内科学
CLINICAL CALCIUM. 21:115-120 (2011年 7月)	抗RANKL抗体による関節リウマチの治療.	田中 良哉	第1内科学
リウマチ科. 46:84-88 (2011年 7月)	Janus kinase(JAK)特異的阻害薬の効果に基づく作用機序の検討.	山岡 邦宏	第1内科学
Arthritis Care Res (Hoboken). 63:1150-1158 (2011年 8月)	Phase II study of tofacitinib (CP-690,550) combined with Methotrexate in patients with rheumatoid arthritis and an inadequate response to methotrexate.	Tanaka, Y.	第1内科学
Mod Rheumatol. 21:444-448 (2011年8月)	The REAL database reveals no significant risk of serious infection during treatment with a methotrexate dose of more than 8 mg/week in patients with rheumatoid arthritis.	Tanaka, Y.	第1内科学
Mod Rheumatol. 22:327-338 (2011年 8月)	Effectiveness and safety of adalimumab in Japanese patients with rheumatoid arthritis: retrospective the first year of adalimumab treatment in routine clinical practice analyses of data collected during (HARMONY study).	Tanaka, Y.	第1内科学
Orthopaedics. 24:13-19 (2011年 8月)	インフリキシマブによる臨床的寛解導入と中止の維持.	齋藤 和義	第1内科学
医学のあゆみ 238:665-670 (2011年8月)	関節リウマチに対するB細胞標的治療	田中 良哉	第1内科学
リウマチ科. 45:572-577 (2011年 9月)	関節リウマチに対する脾臓チロシンキナーゼ阻害剤の効果.	齋藤 和義	第1内科学
リウマチ科. 46:197-202 (2011年 9月)	全身性自己免疫疾患におけるグリコルチコイド抵抗性のメカニズム.	辻村 静代	第1内科学

10件

40件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
実験治療. 703:46-51 (2011年 9月)	異なるDPP-4阻害薬～ネシーナとは～.	岡田 洋右	第1内科学
Joint Bone Spine 78:535-536 (2011年 10月)	Successful treatmenty of primary biliary cirrhosis with etanercept in a patient with rheumatoid arthritis.	Saito,K	第1内科学
Inflammation and Regeneration. 31:341-343 (2011年 10月)	Recent progress in small molecular production for the treatment of joint and bone diseases:an over view.	Tanaka, Y.	第1内科学
Inflammation and Regeneration. 31:344-348 (2011年 10月)	Denosumab for the treatment of joint and bone diseases.	Tanaka, Y.	第1内科学
Inflammation and Regeneration. 31:349-353 (2011年 10月)	JAK inhibitor:tofacitinib,a new disease modifying anti-rheumatic drug.	Yamaoka,K.	第1内科学
Int.J.clin.Rheumatol 6:439-444 (2011年 10月)	Cytokine-mediated signals as targets for treatment of rheumatoid arthritis;a JAK inhibitor in vitro and in vivo.	Tanaka, Y.	第1内科学
リウマチ科. 46:72-77 (2011年10月)	SLEにおける間葉系幹細胞移植について.	田中 良哉	第1内科学
糖尿病レクチャー 2:507-512 (2011年10月)	SU薬で治療中の場合に低血糖が起きやすいのはいつですか.	岡田 洋右	第1内科学
日本内科学会雑誌. 100:2991-2997 (2011年10月)	B細胞に対する生物学的製剤(未承認薬).	齋藤 和義	第1内科学
糖尿病. 54:786-794 (2011年10月)	2型糖尿病患者におけるピオグリタゾン追加投与によるインスリン分泌促進薬減量の有効性と安全性.	森 博子	第1内科学

10件

50件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol. 22:498-508 (2011年10月)	Safety and effectiveness of adalimumab in Japanese rheumatoid arthritis patients: postmarketing surveillance report of the first 3,000 patients.	Tanaka, Y.	第1内科学
Modern Rheumatology. 22:382-393 (2011年10月)	Effects of intravenous immunoglobulin therapy in Japanese patients with polymyositis and dermatomyositis resistant to corticosteroids: a randomized double-blind placebo-controlled trial.	Tanaka, Y.	第1内科学
Rheumatology (Oxford). 50:1908-1915 (2011年 10月)	Clinical, radiographic and functional effectiveness of tocilizumab for rheumatoid arthritis patients—REACTION 52-week study.	Tanaka, Y.	第1内科学
Annals of the Rheumatic Diseases. 71:817-821 (2011年 11月)	Golimumab in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid arthritis: results of the GO-FORTH study.	Tanaka, Y.	第1内科学
Ann Rheum Dis. 70:2148-2151 (2011年12月)	Postmarketing surveillance of tocilizumab for rheumatoid arthritis in Japan: interim analysis of 3881 patients.	田中 良哉	第1内科学
臨床リウマチ. 23:339-343 (2011年12月)	2010年関節リウマチ新分類基準とその臨床応用.	田中 良哉	第1内科学
Arthritis Rheum. 14:77-77 (2011年 12月)	A JAK inhibitor tofacitinib regulates synovitis through inhibition of IFN- γ and IL-17 production by human CD4(+) T cells.	山岡 邦宏	第1内科学
日本骨粗鬆症学会雑誌 20:13-17 (2012年2月)	ピオグリタゾンの骨代謝・骨質に及ぼす影響について検討	森 博子	第1内科学
Jpn.Clin.Immunol 35:56-61 (2012年3月)	全身性自己免疫疾患におけるSYKの関与とその作用メカニズム	岩田 慈	第1内科学
J Bone Miner Metab 30:114-118 (2012年3月)	Marked improvement of calcinosis in adult dermatomyositis with etidronate therapy	Mori,H.	第1内科学

10件

60件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
九州リウマチ 32:17-25 (2012年3月)	関節リウマチ患者におけるCOX-2選択的阻害薬セレコキシブの上部消化管自覚症状に対する影響～非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)切り替え効果の検討～	平田信太郎	第1内科学
治療 94:234-239 (2012年3月)	知っておきたい生物学的製剤の基礎知識	田中 良哉	第1内科学
リウマチ科 97:97-100 (2012年3月)	Janue Kinase(JAK)阻害薬tofacitinibの作用機序と自己免疫疾患治療薬としての可能性	山岡 邦宏	第1内科学
Circulation Journal 75:986-968 (2011年 4月)	Simultaneous Visualization of 2 Intracardiac Masses in Both Atria o 3-Dimensional Transesophageal Echocardiography	Takeuchi,M.	第2内科学
Circulation Journal 75:1090-1097 (2011年5月)	The reliability and characteristics of atrial tachyarrhymias detection in dual chamber pacemakers	Kohno,R.	第2内科学
J Am Soc of Echocardiography 24:(5)541-547 (2011年5月)	Age-and gender-dependency of left ventricular geometry assessed with real-time three-dimensional transthoracic echocardiography	Takeuchi,M.	第2内科学
Clin J Am Coc Nephrol.6:1001-1008 (2011年5月)	Circulating follistatin in patients with chronic kidney disease :implications for muscle strength bone mineral density,inflammation,and survival	宮本 哲	第2内科学
Circulation Journal 75:2280-2281 (2011年6月)	Thrombus Attached to the Left Atrial Septal Pouch Assessed on 3-Dimensional Transesophageal Echocardiography	kuwaki H	第2内科学
Pacing Clin Electrophysiol 9:1540-1542 (2011年6月)	A 2:1 AV Rhythm: An Adverse Effect of a Long AV Delay during DDI Pacing and Its Prevention by the Ventricular Intrinsic Preference Algorithm in DDD Mode.	Minamiguchi, H	第2内科学
Nephrol Dial Transplant 26:2231-2237 (2011年7月)	Postprandial metabolic response to a fat-and carbohydrate-rich meal in patients with chronic kindey disease	宮本 哲	第2内科学

10件

70件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
骨と代謝 24:203-209 (2011年7月)	慢性腎臓病(CKD)における骨疾患および血管石灰化とビタミンKの関連	宮崎 美枝子	第2内科学
JACC cardiovascular Imaging 5:230-232 (2011年8月)	Mechanism of Asymmetric Leaflet Tethering in Ischemic Mitral Regurgitation:3D Analysis With Multislice CT	芳谷 英俊	第2内科学
腹膜透析2011:71巻 別冊:351-352 (2011年9月)	CAVA semi-long catheter seriesの注・排液性能(時間・速度)の検討	久間 昭寛	第2内科学
Circulation Journal 75:2508-2510 (2011年10月)	Syncope and asystole caused by tempora lobe epilepsy	Kohno,R.	第2内科学
Pacing Clin Electrophysiol 34:1301-1303 (2011年10月)	Failure atrial capture during DDIR pacing in a patient with sinus node disease preserved AV conduction.Device Reind.	Kohno,R.	第2内科学
Eur J Heart Failur 13:1140-1146 (2011年10月)	Camparison of acute and chronic impacte of adaptive Servo-Ventilation on left chamber geometry and function in patients with chronic impacts of adaptive Servo-Ventilation on left chamber geometry and function in patients with chronic heart failure	Haruki,N.	第2内科学
Nitric Oxide 25:350-359 (2011年10月)	Crucial vasculoprotective role of the whole nitric oxide synthase in vascular lesion formation in mice :Involvement of bone marrow-derived cells	Furuno,Y	第2内科学
臨床透析 27(11):1503-1508 (2011年10月)	リアルタイム三次元経食道心エコーにて胸部下行大動脈の動脈硬化性病変を観察した透析患者の2例	Haruki, N.	第2内科学
Internal Medicine 50:2485-2490 (2011年11月)	Elevated depressive symptoms are associated with hypertriglyceridemia in Japanese male workers	Kamezaki, F.	第2内科学
Current Opinion Nephrol Hypertension 20:662-668 (2011年11月)	Inflammation as a risk factor and abdominal obesity in end-stage renal disease	Miyamoto,T.	第2内科学

10件

80件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Heart Vessels 26:565-571 (2011年11月)	Effect of intravascular ultrasound - guided adjuvant high-pressure non- Compliant balloon post-dilation after Drug-eluting stent implantation	Muraoka, Y.	第2内科学
Int J Cardiovasc Imaging 5:80-81 (2011年12月)	Evaluation of in-stent neointimal tissue components using integrated backscatter intravascular ultrasound: comparison of drug-eluting stents and bare-metal stents.	Muraoka, Y.	第2内科学
Eur J Echocardiogr 12: 167-205 (2011年12月)	Current and Evolving Echocardiographic Techniques for the quantitative Evaluation of Cardiac Mechanics	竹内 正明	第2内科学
Clin J Am Soc Nephrol 6:2785-2791 (2011年12月)	Inverse relationship between the inflammatory marker pentraxin 3, fat body mass and abdominal obesity in end-stage renal disease	Miyamoto, T.	第2内科学
J Echocardiogr 10:32-34 (2012年1月)	Evidence for impaired left ventricular ejection in hypertrophic obstructive cardiomyopathy; dynamic aortic ejection flow velocity profile demonstrated by pulsed Doppler echocardiography	Otsuji, Y.	第2内科学
J Am Coll Cardiol 59:1058-1072 (2012年3月)	Consensus Standards for Acquisition Measurement and Reporting of Intravascular Optical Coherence Tomography Studies: A Report From the International Working Group for Intravascular Optical Coherence Tomography Standardization and Validation	Sonoda, S.	第2内科学
Circulation Journal 76:598-606 (2012年3月)	Incidence and characteristics of Far- field R-wave sensing low right atrial septum pacing	Minamiguchi, H.	第2内科学
日本臨牀 新時代のウイル ス性肝炎学 基礎・臨床研究の進歩 69: 134-138 (2011年 5月)	C型肝炎 HCV感染にかかわる病態 HCV感染とインスリン抵抗性、糖尿病	原田 大	第3内科学
Hepatology Research 41 (5): 492-496 (2011年 5月)	Case of severe liver damage after the induction of tocilizumab therapy for rheumatoid vasculitis.	Hiura, M.	第3内科学
Hepatology Research 41 (5): 484-491 (2011年 5月)	Copper incorporation into ceruloplasmin is regulated by Niemann-Pick C1 protein.	Harada, M.	第3内科学

10件

90件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatology Research 41(6):564-571 (2011年6月)	Data mining reveals complex interactions of risk factors and clinical feature profiling associated with the staging of non-hepatitis B virus/non-hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	Tabaru,A	第3内科学
Internal Medicine 50(14):1461-1464 (2011年7月)	Excess copper chelating therapy for Wilson disease induces anemia and liver dysfunction.	Harada, M.	第3内科学
World Journal of Gastrointestinal Endoscopy 3(7):145-150 (2011年7月)	Development of a novel endoscopic manipulation system:The Endoscopic operation robot.	Kume, K.	第3内科学
Clinical Journal of Gastroenterology 4(5):302-306 (2011年7月)	A case of postirradiation angiosarcoma of the greater omentum with hemorrhage.	Harada, M.	第3内科学
Hepato-Gastroenterology 58(107):798-801 (2011年8月)	Mild collateral varices and a fundic plexus without perforating veins on EUS predict endoscopic non-recurrence of esophageal varices after EVL.	Kume, K.	第3内科学
産業医科大学雑誌 33(4):337-344 (2011年12月)	肝疾患でのオートファジーの意義	原田 大	第3内科学
Hepatology Research 41(12):1253-1259 (2011年12月)	Development of intrahepatic cholangiocarcinoma after a 14-year follow-up of a patient with primary sclerosing cholangitis and ulcerative colitis.	Harada, M.	第3内科学
新版 感染症診療実践ガイド 臨時増刊号 28:263-268 (2011年4月)	びまん性汎細気管支炎	川波 敏則	呼吸器科
Respiration 81(5):420-430 (2011年4月)	Effects of doxycycline on production of growth factors and matrix metalloproteinases in pulmonary fibrosis	Ishimatsu,Y.	呼吸器科
総合臨牀 60:295-298 (2011年5月)	肺音聴診と異常所見	西田 千夏	呼吸器科

10件

100件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肺癌 51:3-3 (2011年 6月)	洞房結節転移、心筋転移を認め突然死をきたした原発性肺癌の1例	長神 康雄	呼吸器科
日本呼吸器学会雑誌 49(6):437-442 (2011年 6月)	IgG4陽性形質細胞の浸潤を認めた multicentric Castleman病の1例	生越 貴明	呼吸器科
アレルギー・免疫 18(9):96-106 (2011年 8月)	JGL2009治療ステップ3以上の成人気管支喘息患者に対する高用量サルメテロール/フルチカゾン配合剤から高用量ブデソニド/ホルモテロール配合剤への切り替え効果の検討	矢寺 和博	呼吸器科
産業医科大学雑誌 33(3):255-261 (2011年 8月)	特発性間質性肺炎の治療中に、左大腿骨頸部骨折を契機に急激な呼吸不全を呈した脂肪寒栓症候群の1例	川波 敏則	呼吸器科
Inhal Toxicol 23(10):593-601 (2011年 8月)	Diesel exhaust inhalation induces heat shock protein 70 expression in vivo	矢寺 和博	呼吸器科
Mebio 28(8):103-110 (2011年 8月)	膠原病関連肺疾患の治療[無筋病性皮膚筋炎(ADM)や強皮症関連間質性肺炎(SSC-IP)を中心に]	迎 寛	呼吸器科
日本胸部臨床 70(9):950-954 (2011年 9月)	中国浙江省に滞在中、ウエステルマン肺吸虫に感染した邦人の1症例	迎 寛	呼吸器科
Toxicology and Applied Pharmacology 255(2):184-192 (2011年 9月)	Exposure to diesel exhaust up-regulates iNOS expression in ApoE knockout mice	Kido, T.	呼吸器科
呼吸 30(9):824-825 (2011年 9月)	気管支血管束周囲および胸膜直下に斑状のすりガラス状陰影を呈した悪性リンパ腫の1例	石本 裕士	呼吸器科
呼吸 30(9):810-813 (2011年 9月)	ピットフォール 金属ヒューム熱	川波 敏則	呼吸器科

10件

110件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Progress in Medicine 31(10):107-114 (2011年10月)	感染症治療の新たな展開ーヒト、微生物、薬剤を考えた感染症治療とマクロライドー	迎 寛	呼吸器科
JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 64(5):281-291 (2011年10月)	下気道感染症に対するシタフロキサシンの有効性と安全性の検討	迎 寛	呼吸器科
JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 64(5):311-318 (2011年 10月)	慢性壊死性肺アスペルギルス症に対するアムホテリシンB脂質製剤4時間投与の安全性の後方視的検討	矢寺 和博	呼吸器科
日本呼吸器学会雑誌 49(10):770-774 (2011年 10月)	術後16年で再発し急速に進行した転移性肺無色素性悪性黒色腫の1例	生越 貴明	呼吸器科
Eur J Pharmacol 668:264-270 (2011年 10月)	Anti-inflammatory effects of garenoxacin on IL-8 production and ERK1/2 activation induced by lipopolysaccharides in A549 and THP-1 cells	Mukae, H.	呼吸器科
Inhal Toxicol 23(12):736-744 (2011年 10月)	Foam cell formation of alveolar macrophages in Clear cell ablated mice inhaling crystalline silica	Yatera, K.	呼吸器科
医薬ジャーナル 47(11)130-134 (2011年 11月)	呼吸器科領域～慢性呼吸器感染症に対する作用からの新たな感染症治療戦略～	迎 寛	呼吸器科
総合臨牀 60(12):2450-2454 (2011年 12月)	間質性肺炎に対する血液浄化療法(PMX療法)の有用性	迎 寛	呼吸器科
Intern Med 50(24):3013-3017 (2011年 12月)	Two cases of everolimus-associated interstitial pneumonia in patients with renal cell carcinoma	Yatera, K.	呼吸器科
臨床と研究 88(12):1493-1497 (2011年 12月)	呼吸器感染症の診断-検査の進め方 冬季に見られる呼吸器感染症	川波 敏則	呼吸器科

10件

120件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨牀透析 27(12):71-74 (2011年 12月)	重症呼吸器疾患に対するアフレスニス療法	石本 裕士	呼吸器科
神経内科 75(2):185-188 (2011年 8月)	多系統萎縮症患者の介護者におけるうつ、QOLおよび介護負担の検討	魚住 武則	神経内科学
Psychiatry Res. 186:326-332 (2011年 4月)	Relationships between stress, social adaptation, personality traits, brain-derived neurotrophic factor and 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol plasma concentrations in employees at a publishing company in Japan.	Yoshimura, R	精神医学
精神神経学雑誌 113(3):271-276 (2011年 4月)	新規の専門医制度における精神科後期研修を経験した立場から	中野和歌子	精神医学
臨床精神薬理 14(6):969-976 (2011年 5月)	せん妄の最新薬物治療ガイドライン	宇都宮健輔	精神医学
精神医学 53(5):497-502 (2011年 5月)	新旧卒後臨床研修制度の外来教育に対する若手精神科医の意識調査 外来診療開始までの陪席期間について	中野和歌子	精神医学
最新精神医学 16(3):267-268 (2011年 5月)	精神科医はもっと産業医学への理解を—産業医学はリエゾン精神医療の実践の場—	中村 純	精神医学
精神科 18(5):495-498 (2011年 5月)	気分障害の生化学的マーカー	中野和歌子	精神医学
精神科 148(5):584-589 (2011年 5月)	薬物療法の工夫により復職につながった統合失調症の1例	新開 隆弘	精神医学
精神科 18(5):600-606 (2011年 5月)	アンケート調査に基づくひきこもりの精神医学的背景に関する検討	中野和歌子	精神医学

10件

130件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Affective Disorders 133:22-28 (2011年 5月)	Type A behavior pattern hyperthymic temperament:Possible association with bipolar IV disorder	Yoshimura, R.	精神医学
診療と治療 99(6):1037-1042 (2011年 6月)	内科的疾患における精神症状とその対応 膠原病、内分泌疾患	杉田 篤子	精神医学
日本生物学的精神医学会誌 22(2):83-87 (2011年 6月)	うつ病での脳由来神経栄養因子(BDNF)の血中動態	吉村 玲児	精神医学
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 35(4):1022-1025 (2011年 6月)	The brain-derived neurotrophic(BDNF)polymorphism Val66Met is associated with neither serum BDNF level nor response to selective serotonin reuptake inhibitors in depressed Japanese patients.	Yoshimura, R.	精神医学
最新精神医学 16(4):459-466 (2011年 7月)	抗うつ薬の潜在的有害事象—賦活症状を中心に—	中村 純	精神医学
Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics 2:24-26 (2011年 7月)	A case of a depressive patient with alcohol and nicotine dependence successfully treated with sertraline	Nakano, W.	精神医学
Chronobiology international 28(9):825-833 (2011年 7月)	The clock gene and mood disorders:A case-control study and meta-analysis	Yoshimura, R.	精神医学
臨床精神薬理 14(8):1397-1411 (2011年 8月)	統合失調症入院患者に対する抗精神病薬処方の変化	中野和歌子	精神医学
Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics 2:30-31 (2011年 8月)	A case of discontinuation syndrome following the discontinuation of low-dose mirtazapine therapy in malignant lymphoma	Sugita, A.	精神医学
臨床精神薬理 14(9):1471-1477 (2011年 8月)	ムードスタビライザーとしてのバルプロ酸・carbamazepineの位置付け	中野和歌子	精神医学

10件

140件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics 2:34-42 (2011年 9月)	Effect of treatment with atypical drugs for 6 months on brain levels of N-acetylaspartate or serum levels of brain-derived neurotrophic factor in early-stage first-episode schizophrenia—a preliminary study	Goto, N.	精神医学
J Affect Disord 133:150-157 (2011年 9月)	Possible association between ubiquitin-specific peptidase 46 gene and major depressive disorders in the Japanese population.	Yoshimura, R.	精神医学
臨床精神薬理 14(10):1607-1613 (2011年 10月)	剤形選択から考える統合失調症患者の服薬アドヒアランス向上	堀 輝	精神医学
Medical Practice 28(10):1720-1729 (2011年 10月)	内科医に知ってほしいうつ状態・うつ病の概念と治療指針	堀 輝	精神医学
Nicotine & Tobacco Research 14(4):486-489 (2011年 10月)	Plasma Levels of Metabolites of Catecholamine in Nicotine-Dependent Patients Treated With Varenicline	Nakano, W.	精神医学
精神科 19(2):183-185 (2011年 10月)	がん患者の精神症状に対する評価とその対応	吉村 玲児	精神医学
Human Psychopharmacology 26(7):531-534 (2011年 11月)	Three polymorphisms of the eNOS gene and plasma levels of metabolites of nitric oxide in depressed Japanese patients: a preliminary report.	Sugita, A.	精神医学
精神科 19(5):531-536 (2011年 11月)	Olanzapineからquetiapineへの切り替えで、精神症状、認知機能が改善した統合失調症の2症例	堀 輝	精神医学
Human Psychopharmacology 27(1):33-38 (2011年 11月)	Aripiprazole altered plasma levels of brain-derived neurotrophic factor and catecholamine metabolites in first-episode untreated Japanese schizophrenia patients	Yoshimura, R.	精神医学
臨床精神薬理 14(12):1992-1993 (2011年 12月)	せん妄治療におけるtiapride投与のリスク-ベネフィットについて—非定型抗精神病薬との比較を交えて—	宇都宮健輔	精神医学

10件

150件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Psychiatry in Clinical Practice 16(2):138-142 (2011年 12月)	Several prescription patterns of antipsychotic drugs influence cognitive functions in Japanese chronic schizophrenia patients	Hori, H.	精神医学
J Affect Disord 135:66-76 (2011年 12月)	Introducing the concept of modern depression in Japan;an	Nakano, W.	精神医学
日本禁煙学会雑誌 6(6):91-97 (2011年 12月)	精神疾患を併存しているニコチン依存症患者の禁煙治療成績	中野和歌子	精神医学
Psychiatry and Clinical Neurosciences 65(7):624-629 (2011年 12月)	Reliability, validity and clinical utility of a Japanese version of the Social Adaptation Self-evaluation Scale as calibrated using the Beck Depression Inventory	Nakano, W.	精神医学
精神科 19(6):591-595 (2011年 12月)	継続的な精神科医のかかわりにより化学療法を再開できた膵臓がんの1例	杉田 篤子	精神医学
Journal of clinical immunology 31(3):309-314 (2011年 6月)	Clinical and host genetic characteristics of Mendelian susceptibility to mycobacterial diseases in Japan	Kusuhara, K.	小児科学
日本周産期・新生児医学会雑誌 43(3):629-637 (2011年 8月)	当院NICUにおける早期新生児期の凝固学的検査所見	高橋大二郎	小児科学
日本臨床免疫学会会誌 34(5):401-407 (2011年 10月)	PFAPA症候群	楠原 浩一	小児科学
Pediatric and developmental pathology 15(2):151-155 (2012年 3月)	Differential transmission and postnatal outcomes in triplets with intrauterine cytomegalovirus infection	Kusuhara, K.	小児科学
日本内視鏡外科学会雑誌 16(2):251-256 (2011年 4月)	多自由度内視鏡外科手術鉗子(Radius Surgical System)を用いた内視鏡外科手術	柴尾 和徳	第1外科学

10件

160件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pancreatology 11(2):3-6 (2011年 4月)	How to Define Patients at High Risk for Pancreatic Cancer	Yamaguchi, K.	第1外科学
Surgical Endoscopy 25(8):2733-2737 (2011年 4月)	Disk suspension method: a novel and safe technique for the retraction of the liver during laparoscopic surgery (with video).	Shibao, K.	第1外科学
Pancreas 40(4):571-580 (2011年 5月)	Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Derived From IPMN and Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Concomitant With IPMN	Yamaguchi, K.	第1外科学
Japanese journal of clinical oncology 41(7):836-840 (2011年 7月)	EBM-based Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer 2009 from the Japan Pancreas Society: a synopsis.	Yamaguchi, K.	第1外科学
Journal of Hepato-biliary Pancreatic sciences 18:7-7 (2011年12月)	Pancreatoduodenectomy for bile duct and ampullary cancer.	Yamaguchi, K.	第1外科学
J Thorac Cardiovasc Surg 141(4):895-898 (2011年 4月)	Overexpression of MACC1 mRNA in lung adenocarcinoma is associated with postoperative recurrence.	Shimokawa, H.	第2外科学
Anticancer Res 31(4):1141-1145 (2011年 4月)	Molecular diagnosis of MACC1 status in lung adenocarcinoma by immunohistochemical analysis.	Uramoto, H.	第2外科学
Int Surg 96(2):171-175 (2011年 4月)	Pleural lavage cytology immediately after thoracotomy in patients with completely resected non-small cell lung cancer.	Hanagiri, T.	第2外科学
日本衛生学雑誌 66(3):543-552 (2011年 5月)	科学技術振興調整費「アスベスト関連疾患への総括的取り組み」班研究: 成果報告 ー班 研究の概要と登録事業、中皮腫細胞特性ならびにアスベストの免疫影響についてー	田中 文啓	第2外科学
Lung Cancer 72(3):360-364 (2011年 6月)	TS expression predicts postoperative recurrence in adenocarcinoma of the lung.	Shimokawa, H.	第2外科学

10件

170件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Front Biosci 16:2961-2969 (2011年 6月)	Detection of EGFR and K-ras mutations for diagnosis of multiple lung adenocarcinomas.	Uramoto, H.	第2外科学
Lung Cancer Cutting Edge 14:15-18 (2011年6月)	肺癌治療におけるDIF製剤の意義	田中 文啓	第2外科学
Exp Ther Med 2(4):585-590 (2011年 7月)	Insulin-like growth factor receptor-1 expression predicts postoperative recurrence in adenocarcinoma of the lung	Uramoto, H.	第2外科学
Int J Oncol 39(6):1365-1374 (2011年 7月)	Frequent deletion of 3p21.1 region carrying semaphorin 3G and aberrant expression of the genes participating in semaphorin signaling in the epithelioid type of malignant mesothelioma cells	Tanaka, F	第2外科学
I line route 8:3-4 (2011年7月)	私の治療指針EGFR遺伝子陽性例における治療戦略:EGFR-TKIの選択	田中 文啓	第2外科学
Ann Oncol 22(8):1791-1791 (2011年8月)	Thymidylate synthase (TS)gene expression in primary lung cancer patients:a large-scale study in Japanese population	Tanaka,F.	第2外科学
Lung Cancer 73(3):361-365 (2011年 9月)	Expression of selected gene for acquired drug resistance to EGFR-TKI in lung adenocarcinoma.	Uramoto, H	第2外科学
J UOEH 33(3):205-216 (2011年 9月)	Evaluation of Topoisomerase I/Topoisomerase II α Status in Esophageal Cancer.	Hanagiri, T.	第2外科学
がんの浸潤・転移—臨床と基礎 :110-119 (2011年10月)	循環腫瘍細胞(CTC)	田中 文啓	第2外科学
Lung Cancer 74(1):112-117 (2011年10月)	Preoperative CYFRA21-1 and CEA as prognostic factors in patients with stage I non-small cell lung cancer	Hanagiri,T.	第2外科学

10件

180件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur Surg Res 47(4):211-217 (2011年10月)	Prognostic Significance of Lymphovascular Invasion for Patients with Stage I Non-Small Cell Lung Cancer	Hanagiri, T.	第2外科学
J Cardiothorac Surg 25(6):144-144 (2011年10月)	Clinical Significance in the number of involved lymph nodes in patients that underwent surgery for pathological stage III N2 non-small cell lung cancer	Hanagiri, T.	第2外科学
Br J Cancer 9:1465-1465 (2011年10月)	Comment on 'Pre-treatment levels of circulating freeIGF-1 identify NSCLC patients who derive clinical benefit from figitumumab	Shimokawa, T.	第2外科学
Int J Gynecol Pathol 30(6) : 527-531 (2011年11月)	Clinical Relevance of TAp73 and Δ Np73 Protein Expression in Ovarian Cancer: A Series of 83 Cases and Review of the Literature	Uramoto, H	第2外科学
Scand J Surg 100(2) : 159-163 (2011年11月)	Results of a surgical resection for patients with thymic carcinoma	Hanagiri, T.	第2外科学
Scand J Surg 100(2) : 153-158 (2011年11月)	A study of surgically resected peripheral non-small cell lung cancer with a tumor diameter of 1.0 cm or less	Baba, T.	第2外科学
Anticancer Res. 31(12) : 4451-4456 (2011年12月)	The EMT Status in the Primary Tumor Does Not Predict Postoperative Recurrence or Disease-free Survival in Lung Adenocarcinoma	Tanaka, F.	第2外科学
Anticancer Res. 31(12) : 4631-4636 (2011年12月)	The Prognostic Significance of HER2 Overexpression in Non-small Cell Lung Cancer	Takenaka, M.	第2外科学
Anticancer Res. 31(12) : 4277-4282 (2011年12月)	The expression of ki-67, but not proliferating cell nuclear antigen, predicts poor disease free survival in patients with adenocarcinoma of the lung	Oka, S.	第2外科学
J Cardiothorac Surg 6(1) : 165-165 (2011年12月)	Natural air leak test without submergence for spontaneous pneumothorax.	Uramoto, H	第2外科学

10件

190件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Thorac Oncol. 6(12):2011-2017 (2011年12月)	Hepatocyte growth factor expression in EGFR mutant lung cancer with intrinsic and acquired resistance to tyrosine kinase inhibitors in a Japanese cohort.	Uramoto, H	第2外科学
Clin Lung Cancer 13(2):136-142 (2012年2月)	Clinical Significance of IGFIR Expression in Non-Small-Cell Lung Cancer	Nakagawa.M	第2外科学
J UOEH 34(1):41-46 (2013年3月)	未診断肺腫瘍として外科切除を施行した肺過誤腫症例の検討	篠原 伸二	第2外科学
Lung cancer 76:129-130 (2012年3月)	T790M is associated with a favorable Prognosis in Japanese patients treated With an EGFR-TKI	Uramoto.H.	第2外科学
Anticancer Res 32:861-864 (2012年3月)	The Expression of CD146 Predicts a Poor Overall Survival in Patients with Adenocarcinoma of the Lung	Oka,S.	第2外科学
European Journal of Cardio-thoracic Surgery 39(4):465-470 (2011年4月)	A Novel electron paramagnetic resonance spin-probe technique demonstrates the relation between the production of hydroxyl radicals and ischemia-reperfusion injury	Eto,M	心臓血管外科
脳神経外科ジャーナル別冊 20(6):424-431 (2011年6月)	第三脳室腫瘍性病変の外科治療	西澤 茂	脳神経外科学
Neuroradiology 53:413-423 (2011年7月)	Dural attachment of intracranial meningiomas: evaluation with contrast-enhanced three-dimensional fast imaging with steady-state acquisition(FIESTA) at 3T	Yamamoto, J	脳神経外科学
Neurologia medico-chirurgica 51(8):575-578 (2011年8月)	Basi-parallel anatomical scanning magnetic resonance imaging patients with bilateral vertebrobasilar artery dissections -case report-	Yamamoto, J	脳神経外科学
Journal of UOEH 33(3):217-223 (2011年9月)	Preoperative radiological evaluation and surgical strategy for the patients with skull base meningiomas-Two case reports-	Yamamoto, J	脳神経外科学

10件

200件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of medical english education 10(3):84-87 (2011年10月)	Importance of subjective evaluations by candidates in the examination for proficiency in english for medical purposes	Nishizawa, S.	脳神経外科学
Journal of UOEH 33(4):303-312 (2011年12月)	Surgical treatment for a ruptured true posterior communicating artery aneurysm arising on the fetal-type posterior communicating artery -Two case reports and review of the literature-	Nakano, Y.	脳神経外科学
PLoS Genetics 7(4):100205-100205 (2011年4月)	Loss-of-Function Mutations in PTPN11 Cause Metachondromatosis, but Not Ollier Disease or Maffucci Syndrome.	Sakai, A.	整形外科
整形・災害外科 54(6):745-750 (2011年5月)	新規胸腰椎圧迫骨折における前方硬性コルセットの椎体圧潰予防効果～軟性コルセットとの比較検討～	小田 浩司	整形外科
Bone 48(5):1075-1086 (2011年5月)	Reduced bone formation in alcohol-induced Osteopenia is associated with elevated p21 expression in bone marrow cells in aldehyde dehydrogenase 2-disrupted mice.	Sakai, A.	整形外科
Journal of Spine Research 2(6):1070-1075 (2011年6月)	特集:腰痛の起源と疫学 腰痛による quality of life(QOL)損失の検討	中村英一郎	整形外科
Journal of Spine Research 2(6):1182-1187 (2011年6月)	座位仰臥位単純X線撮影による骨粗鬆症性椎体骨折部不安定性の経時的評価	清水 建詞	整形外科
Journal of Orthopaedic Trauma 25(7):425-431 (2011年7月)	Clinical Results of Volar Locking Plate for Distal Radius Fractures:Conventional versus Minimally Invasive Plate Osteosynthesis.	Zenke, Y.	整形外科
日外傷会誌 25(3):371-375 (2011年7月)	外傷後大腿骨骨幹部骨髄炎・広範囲骨欠損に対する1治療例～外傷初期診療における問題点について～	善家 雄吉	整形外科
J Bone Miner Res. 26(7):1437-1446 (2011年7月)	IGF-1R Signaling in chondrocytes modulates growth plate development by interacting with the PTHrP/Ihh pathway	Nakamura, E.	整形外科

10件

210件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Bone 49(3):520-525 (2011年9月)	Vertebral fracture status and the World Health Organization risk Factors for predicting osteoporotic fracture risk in Japan.	Nakamura, T.	整形外科科学
Osteoporosis Japan 19(4):735-744 (2011年11月)	ビスホスホネート服用方法に関するもう一つの可能性・静脈注射製剤	中村 利孝	整形外科科学
日本手外科学会オンライン ジャーナル 28(2):1-4 (2011年11月)	生体内吸収性プレートを用いた尺骨遠位端骨折の治療成績	村井 哲平	整形外科科学
Journal of Orthopaedic Biomaterials(Orthopaedic Ceramic Implants) 30:43-47 (2011年12月)	生体内吸収性プレートを用いた中手骨骨折治療の実際	酒井 昭典	整形外科科学
九州歯科学会雑誌 6584):105-109 (2011年12月)	骨粗鬆症に対するビスフォスフォネートを用いた治療の現状と今後	酒井 昭典	整形外科科学
骨折 33(4):765-768 (2011年12月)	無腐性骨壊死を伴った舟状骨偽関節に対する血管柄付骨移植術の治療成績	善家 雄吉	整形外科科学
日本手外科学会雑誌 28(3):174-177 (2011年12月)	尺骨短縮術前後のTFCCの形状変化:MRIでの検討	山中 芳亮	整形外科科学
日本手外科学会雑誌 28(3):158-161 (2011年12月)	特発性手根管症候群に対し、トリアムシノロン手根管内注射を行い、6ヶ月以上効果がある群のMRI所見の特徴	酒井 昭典	整形外科科学
日本手外科学会雑誌 28(3):181-185 (2011年12月)	上肢筋骨格系疾患に対する各種機能評価法の比較検討	目貫 邦隆	整形外科科学
Clinical and Experimental Dermatology 36(3):315-317 (2011年4月)	Therapeutic efficacy of mizoribine for discoid lupus erythematosus with normalized frequency of circulating T helper 17 cells	Sugita, K.	皮膚科学

10件
220件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology 25(4):485-488 (2011年4月)	Increased circulating Th17 frequencies and serum IL-22 levels in patients with acute generalized exanthematous pustulosis	Kubo, R.	皮膚科学
Journal of Investigative Dermatology 131(4):956-961 (2011年4月)	Topical cholecystokinin depresses itch-associated scratching behavior in mice.	Nakamura, M	皮膚科学
臨床皮膚科 65(6):422-426 (2011年5月)	Malignant nodular hidradenomaの1例	大森 俊	皮膚科学
European Journal of Dermatology 21(3):435-436 (2011年5月)	Atypical large bullae caused by herpes simplex in a patient with thymoma	Sugita, K.	皮膚科学
Journal of dermatology 38(12):1202-1205 (2011年5月)	Molecular mapping of lymph node metastases by real-time reverse transcription polymerase chain reaction in two melanoma patients.	Hino, R.	皮膚科学
日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 5(2):85-90 (2011年6月)	減汗性コリン性蕁麻疹の新知見	澤田 雄宇	皮膚科学
European Journal of Dermatology 21(3):425-426 (2011年6月)	Recurrent annular erythema after thymectomy	Sawada, Y	皮膚科学
西日本皮膚科 73(3):260-265 (2011年6月)	日光角化粧とBowen病に対するメタルハライドランプを用いた光線力学療法(PDT)の治療効果の検討	尾藤 利憲	皮膚科学
Clinical and experimental dermatology 36(5):555-557 (2011年7月)	Schwannomatosis presenting with large subcutaneous and retroperitoneal tumours	Nakamura, M	皮膚科学
Dermatology Today 5(5):16-17 (2011年7月)	ATLLでは皮疹型により予後の推定が可能	澤田 雄宇	皮膚科学

10件

230件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Dermatology 38(7):717-719 (2011年7月)	Downmodulatory effects of cetirizine and levocetirizine on cytokine/chemokine production and CD54 expression in keratinocytes	Kobayashi, M.	皮膚科学
Visual Dermatology 10(7):732-733 (2011年7月)	先天性血管拡張性大理石様皮斑	吉木竜太郎	皮膚科学
Photomedicine and Photobiology 33:3-4 (2011年7月)	Role of prostaglandin E2 for photosensitivity of murine pellagra model	Sugita, K.	皮膚科学
European Journal of Dermatology 21(4):646-647 (2011年7月)	Keloid exacerbation associated with adult T-cell leukemia/lymphoma cell infiltration	Sawada, Y	皮膚科学
European Journal of Dermatology 21(4):635-636 (2011年7月)	Maculopapular-type drug eruption caused by entecavir	Sawada, Y	皮膚科学
脱毛症治療の新戦略 158-161 (2011年8月)	休止期脱毛症	中村 元信	皮膚科学
British Association of Dermatologists 165(2):437-439 (2011年8月)	High levels of activation-induced cytidine deaminase expression in adult T-cell leukaemia/lymphoma	Nakamura, M	皮膚科学
acta dermatovenereologica 99(5):600-601 (2011年9月)	Generalized Fixed Drug Eruption Caused Pazufloxacin	Sawada, Y	皮膚科学
EUROPEAN JOURNAL OF DERMATOLOGY 21(5):780-782 (2011年9月)	Elevated expression of activation-induced cytidine deaminase in T and K cells from patients with chronic active Epstein-Barr virus infection	Nakamura, M	皮膚科学
THE JOURNAL OF DERMATOLOGY 38(9):935-937 (2011年9月)	Cutaneous pseudolymphoma due to benidipine hydrochloride with massive infiltration of eosinophils	Fukamachi, S.	皮膚科学

10件

240件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ARCH DERMATOL 147(9):1110-1112 (2011年9月)	High-Mobility Group Box 1 Protein (HMGB1) as a Novel Diagnostic Tool for Toxic Epidermal Necrolysis and Stevens-Johnson Syndrome	Sugita, K.	皮膚科学
The journal of Dermatology 38(9):900-904 (2011年9月)	Identification of 736T>A mutation of lipase H in Japanese siblings with autosomal recessive woolly hair.	Nakamura, M	皮膚科学
西日本皮膚科 73(5):465-469 (2011年10月)	皮膚における上皮-間葉転換と病態への関与	中村 元信	皮膚科学
皮膚科の臨床 53(11):1514-1518 (2011年10月)	1毛3脱毛症 Q7びまん性脱毛を鑑別するポイントは?	中村 元信	皮膚科学
Nitric Oxide 25(3):350-359 (2011年10月)	Crucial vasculoprotective role of the whole nitric oxide synthase system in vascular lesion formation in mice: Involvement of bone marrow-derived cells	Sugita, K.	皮膚科学
皮膚の科学 10(16):11-14 (2011年10月)	アトピー性皮膚炎で機能的バリア異常はどのくらいみられるか 高IgE外因性アトピー性皮膚炎(AD)と正常域IgE内因性ADの皮膚バリア能と知覚閾値の比較	森 智子	皮膚科学
皮膚の科学 10(16):25-28 (2011年10月)	フィラグリン遺伝子変異によってなぜフィラグリンが低下するのか:C末端領域の謎	坂部 純一	皮膚科学
皮膚の科学 10(16):38-40 (2011年10月)	バリア異常のないアトピー性皮膚炎の原因あるいはメカニズムは何か	久保利江子	皮膚科学
産業医科大学雑誌 33(4):313-317 (2011年10月)	Alopecia Universalis Following Two Sequential Traffic Accidents: Possible Association with Increased Th1 and Th17 Cells and Decreased Th2 Cells	Kubo, R.	皮膚科学
皮膚病診療 33(10):1027-1030 (2011年10月)	タール・ピッチ皮膚症	日野 亮介	皮膚科学

10件

250件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚病診察 33(10):1023-1026 (2011年10月)	全身に皮疹を認めた職業性クロムアレルギー	久保利江子	皮膚科学
EUROPEAN JOURNAL OF DERMATOLOGY 21(6):1002-1003 (2011年11月)	Overexpression of autophagy-related beclin-1 in cutaneous squamous cell carcinoma with lymph-node metastasis	Nakamura, M	皮膚科学
The Journal of Dermatology 38(12):1163-1166 (2011年12月)	Efficacy of combined topical treatment of acne vulgaris with adapalene and nadifloxacin: A randomized study	Nakamura, M	皮膚科学
Visual Dermatology 10(12):1272-1274 (2011年12月)	皮膚バリア機能を担うフィラグリンの成熟機構	戸倉 新樹	皮膚科学
Visual Dermatology 10(12):1295-1295 (2011年12月)	正常IgE値(内因性)アトピー性皮膚炎の免疫状態	久保利江子	皮膚科学
Visual Dermatology 10(12):1296-1297 (2011年12月)	金属アレルギーとアトピー性皮膚炎	久保利江子	皮膚科学
Visual Dermatology 10(12):1302-1303 (2011年12月)	魚アレルギーとアトピー性皮膚炎	杉田 和成	皮膚科学
Visual Dermatology 10(12):1306-1307 (2011年12月)	angiohistiocytoid papules	杉田 和成	皮膚科学
Visual Dermatology 10(12):1308-1309 (2011年12月)	アトピー性皮膚炎に伴った chondrodermatitis of the auricle	澤田 雄宇	皮膚科学
Visual Dermatology 10(12):1310-1311 (2011年12月)	炎症性辺縁隆起性白斑	杉田 和成	皮膚科学

10件

260件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Visual Dermatology 10(12):1312-1313 (2011年12月)	アトピー性皮膚炎と好酸球性膿疱性毛包炎は合併するか	中島 大毅	皮膚科学
日本臨床皮膚科医会九州 ブロック会報 (11):29-30 (2011年12月)	日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン2010について	中村 元信	皮膚科学
臨床皮膚科 65(13):1027-1030 (2011年12月)	人口膝関節置換術後に生じ、好酸球性胃腸炎を併発した全身性金属アレルギー	日野 亮介	皮膚科学
日本皮膚科学会雑誌 121(13):3091-3093 (2011年12月)	成人T細胞性白血病/リンパ腫の皮疹型と予後判定への重要性	澤田 雄宇	皮膚科学
Rheumatology 50(12):2318-2320 (2011年12月)	Calcinosis cutis associated with primary Sjexpression of osteonectin and matrix Gla protein	Yoshioka, H	皮膚科学
日本医事新報 4553:58-59 (2011年7月)	Q&A: 小児の新鮮熱傷例の除痛処置	安田 浩	形成外科
Biochem Biophys Res Commun 408(1):45-51 (2011年4月)	Human mitochondrial transcription factor A functions in both nuclei and mitochondria and regulates cancer cell growth	Fujimoto,M.	泌尿器科学
BMC Urol 14(11):7-7 (2011年4月)	Duration of androgen deprivation therapy with maximum androgen blockade for localized prostate cancer	Fujimoto,M.	泌尿器科学
Int J Urol 18(7):495-502 (2011年7月)	Guideline for the prevention of health care-associated infection in urological practice in japan	Hamasuna,R.	泌尿器科学
Free Radic Biol Med 51(1):78-87 (2011年7月)	Peroxiredoxin 2 in the nucleus and cytoplasm distinctly regulates androgen receptor activity in prostate cancer cells	Fujimoto,N	泌尿器科学

10件

270件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endocr-Related Cancer 18(4):505-517 (2011年7月)	Y-box binding protein-1 promotes castration-resistant prostate cancer growth via androgen receptor expression.	藤本 直浩	泌尿器科学
西日本泌尿器科 73(8):391-403 (2011年8月)	男子尿道炎の診断と治療	濱砂 良一	泌尿器科学
Sex Transm Infect 87(5):389-390 (2011年8月)	Effect of gatifloxacin against Mycoplasma genitalium-related urethritis:an open clinical trial	Hamasuna,R.	泌尿器科学
J Infect Chemother 17(4):579-594 (2011年8月)	Japanese guideline for clinical research of antimicrobial agents on urogenital infections:the first edition	Mathumoto,T	泌尿器科学
Curr Cancer Drug Targets 11(7):870-881 (2011年9月)	Androgen receptor cofactors in prostate cancer:potential therapeutic targets of castration-resistant prostate cancer.	Fujimoto,N	泌尿器科学
Neuroscience 196:97-103 (2011年11月)	Induction of Fos expression in the rat forebrain after intragastric administration of monosodium L-glutamate,glucose and NaCl.	Ohtsubo, H.	泌尿器科学
西日本泌尿器科 73(11):601-604 (2011年11月)	膀胱機能の脊髄における制御とオレキシンAの役割	小林 瑞	泌尿器科学
Int J Urol 19(1):5-6 (2012年1月)	Current controversial issues in the decontamination process for urological endoscopes	Hamasuna,R	泌尿器科学
J Infect Chemother 18(3):410-413 (2012年2月)	Should urologists care for the pharyngeal infection of Neisseria gonorrhoeae or Chlamydia trachomatis when we treat male urethritis	Hamasuna,R	泌尿器科学
Med Oncol DOI10.1007/S12032-012-0178-Z (2012年2月)	Efficacy of estramustine phosphate according to risk classification of castration-resistant prostate cancer	Fujimoto,N	泌尿器科学

10件

280件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Antimicrob Agents 39(3):268-269 (2012年3月)	Mechanism of resistance of a highly carbapenem-resistant <i>Klebsiella oxytoca</i> isolate and comparison of susceptibility to five	Sho,T.	泌尿器科学
日本眼科学会雑誌 115(5):484-484 (2011年5月)	ベバシズマブ硝子体内注射の前眼部新生血管への影響	石橋 真吾	眼科学
American Journal of Ophthalmology 151(6):1095-1100 (2011年6月)	Mutations in the TSPAN12 Gene in Japanese Patients with Familial Exudative Vitreoretinopathy.	近藤 寛之	眼科学
あたらしい眼科 28(7):963-968 (2011年7月)	家族性滲出性硝子体網膜症 (FEVR)	近藤 寛之	眼科学
眼科 53(8):1009-1015 (2011年8月)	老視に対する眼鏡処方	永田 竜朗	眼科学
臨床眼科 65(8):125-129 (2011年8月)	重症未熟児網膜症に対しベバシズマブ硝子体内投与を行った症例の検討	近藤 寛之	眼科学
日本眼科学会雑誌 155(8):727-727 (2011年8月)	Quercetin(ケルセチン)はNrf 2/NRF 1転写システムを介し、peroxiredoxin 3,5の発現を誘導し、酸化ストレスから線維柱帯細胞を保護する	宮本 直哉	眼科学
臨床と研究 88(9):1193-1197 (2011年9月)	一般医科のための緑内障	田原 昭彦	眼科学
臨床眼科 65(10):1691-1694 (2011年10月)	網膜静脈分岐閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する硝子体手術あるいはベバシズマブ硝子体内注入の効果	松下 五佳	眼科学
臨床眼科 65(10):1601-1607 (2011年10月)	眼科用薬剤感受性プレートの臨床的有用性	藤 紀彦	眼科学

10件

290件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科 65(12):1819-1825 (2011年11月)	急性網膜壊死の治療成績	近藤 寛之	眼科学
医学と薬学 67(1):13-18 (2012年1月)	眼科疾患の病態と診断・治療(I)眼精疲労	田原 昭彦	眼科学
眼科手術 25(1)115-117 (2012年1月)	未熟児網膜症に対する抗VEGF療法の効果の検討	渡部 晃久	眼科学
Journal of Glaucoma 21(1):35-40 (2012年1月)	IOP measured by dynamic contour tonometry correlates with IOP measured by Goldmann applanation tonometry and non-contact tonometry in Japanese individuals.	伊藤 健	眼科学
Eur Arch Otorhinolaryngol 268(4):497-500 (2011年4月)	Prediction model for hearing outcome in patients with idiopathic sudden sensorineural hearing loss	Suzuki, H.	耳鼻咽喉科
耳喉頭頸 83(6):415-418 (2011年5月)	重症化したLudwig アンギーナの1症例	塩盛 輝夫	耳鼻咽喉科
耳喉頭頸 83(6):419-422 (2011年5月)	新生児舌根部嚢胞例	加藤 明子	耳鼻咽喉科
耳喉頭頸 83(6):428-432 (2011年5月)	放射線同時併用超選択的動注化学療法が奏効した中咽頭進行癌3例	大久保淳一	耳鼻咽喉科
Otol Jpn 21(3):238-243 (2011年6月)	突発性難聴に対するステロイド鼓室内注入療法の治療成績	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科
耳喉頭頸 83(10):773-776 (2011年9月)	結核性中耳炎の1症例	大淵 豊明	耳鼻咽喉科

10件

300件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Auris Nasus Larynx 38(5):564-569 (2011年10月)	Prediction of hearing outcomes by distortion product otoacoustic emissions in patients with idiopathic sudden sensorineural hearing loss	Mori, T.	耳鼻咽喉科
耳喉頭頸 83(11):847-851 (2011年10月)	長期間のシリコンシート留置が原因と考えられた中耳肉芽症例	小泉 弘樹	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床 104(11):785-789 (2011年11月)	幼児の先天性中耳真珠腫に対する経外耳道鼓膜切除による摘出術	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科
耳喉頭頸 83(12):967-971 (2011年11月)	ムコーズ中耳炎の4症例	三箇 敏昭	耳鼻咽喉科
J Reprod Med 56:224-234 (2011年5月)	Clinical Usefulness of Contrast-Enhanced Color Doppler Ultrasonography in Invasive and Noninvasive Gestational Trophoblastic Diseases	Hachisuga, T	産婦人科学
日本臨床細胞学会九州連 合会雑誌 42:125-129 (2011年8月)	腔断端腫瘍(腺癌)の一例	原田 大史	産婦人科学
American Journal of Obstetrics and Gynecology 205(3):235-235 (2011年9月)	Intravaginal microbial flora by the 16S rRNA gene sequencing	Yoshimura, K.	産婦人科学
日本臨床細胞学会雑誌 51(1):22-27 (2012年1月)	46,XY性腺形成異常症(Swyer症候群)に発生した卵巣混合型悪性胚細胞腫瘍の1例	卜部 理恵	産婦人科
Cancer Sci 103(2):239-244 (2012年2月)	Mitochondrial transcription factor A regulates BCL24 gene expression and Is a prognostic factor in senses ovarian cancer	Kurita,T	産婦人科
Int J Hyperthermia. 27(1):20-26 (2011年2月)	Deep regional hyperthermia for the whole thoratic region using 8 MHz Radiofrequency-capactive heating device:relationship between the radiofrequency-output power and the intra-oesophageal temperature and predictive factors for a good heating in 59 patients	Ohguri,T	放射線科学

10件

310件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Radiat Res 52(6):812-820 (2011年2月)	Multimodal Approaches Including Three-Dimensional Conformal Re-irradiation	Yamaguchi,S	放射線科学
Lung Cancer 71(3):338-343 (2011年3月)	Definitive radiotherapy plus regional Hyperthermia with or without chemotherapy for superior sulcus tumors:a 20 year,single center experience	Moon SD	放射線科学
Psychiatry Res. 192(1):55-59 (2011年4月)	Influence of work shift glutamic acid And gamma-aminobutyric acid(GABA):Evaluation with proton magnetic resonance spectroscopy at 3T	Kakeda,S	放射線科学
画像診断 31(6):608-609 (2011年6月)	骨腫瘍・腫瘍類似病変	青木 隆俊	放射線科学
Jpn J Radiol 29(8):590-594 (2011年8月)	Usefulness of gadolinium-ethoxybenzyl-diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced magnetic resonance cholangiography for detecting mucin retention in bile ducts: a rare intraductal papillary mucinous neoplasm of the bile duct.	Ohki, H.	放射線科学
Acad Radiol. 18(8):1000-1005 (2011年8月)	Usefulness of computerized method for lung nodule detection in digital chest Radiographs using temporal subtraction images	Aoki,T	放射線科学
Eur Radiol 21(10):2202-2210 (2011年10月)	1 novel tract imaging technique of the Brainstem using phase difference enhanced Initial experience in multiple systemimaging:normal anatomy and atrophy	Kakeda,S	放射線科学
麻酔 60(6):682-685 (2011年6月)	ビーチチェア体位における気道系の問題点:披裂軟骨脱臼を生じた症例と頸部屈曲に伴う気管チューブカフ圧の変化	波部 和俊	麻酔科学
Can J Anesth 58(7):630-637 (2011年7月)	Antinociceptive effect of intrathecal administration of taurine in rat models of neuropathic pain	Terada, T.	麻酔科学
臨麻 35(10):1547-1552 (2011年10月)	麻酔術前外来での患者の評価と受診希望患者の傾向	佐多 竹良	麻酔科学

10件

320件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨麻 35(10):1559-1561 (2011年10月)	抗リン脂質抗体症候群患者の周術期管理の検討	川崎 貴士	麻酔科学
臨麻 35(11):1709-1709 (2011年11月)	硬膜外腔確認器具Epidrum®で硬膜外腔を確認できたが抵抗消失法では硬膜外腔を確認できなかった1症例	宗前 玲子	麻酔科学
麻酔 60(12):1378-1383 (2011年12月)	小児心臓手術患者の腋窩静脈と内頸静脈形態の比較検討	植木 雅也	麻酔科学
J UOEH 33(3):231-236 (2011年6月)	カーボン製装具の製作状況・特徴および製作現場での産業医学的問題点 — 義肢装具士へのアンケート調査より—	兼城 勇子	リハビリテーション科学
J UOEJ 33(3):263-268 (2011年7月)	急性期病院において理学療法士増員が患者動態におよぼす効果	和田 太	リハビリテーション科学
Brain Resaerch 1424:1-8 (2011年11月)	Upregulation of arginine vasopressin synthesis in the rat hypothalamus after kainic acid-induced seizures.	Iwanaga, M.	リハビリテーション科学
九州歯科学会雑誌 65(4):110-115 (2011年12月)	経口ビスフォスフォネート治療における処方医と歯科医の連携について	大矢 亮一	歯科・口腔外科
Cytokine 54(1):6-19 (2011年4月)	The CCAAT/enhancer (C/EBP) family of basic-leucine zipper (bZIP) transcription factors is a multifaceted highly-regulated system for gene regulation.	Tsukada J	化学療法センター・血液科
Cancer15 (12):2735-2746 (2011年6月)	Apoptosis induction through proteasome inhibitory activity of cucurbitacin D in human T-Cell leukemia.	Tsukada, J.	化学療法センター・血液科
T-cell Leukemia :81-96 (2011年7月)	Constitutive Activation of the JAK/STAT and Toll-Like Receptor Signaling Pathways in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma	Higashi T	化学療法センター・血液科

10件

330件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Immunology 23(12):741-749 (2011年10月)	Coenzyme A contained in mothers' milk is associated with the potential to induce atopic dermatitis	Higashi, T.	化学療法センター・血液科
第41回 日本看護学会論文集 看護管理 41:137-140 (2011年5月)	新人看護師のリフレクション研修の効果	萩原 由美	看護部
日本禁煙学会雑誌 6(6):108-110 (2011年12月)	禁煙外来における看護師による3つの禁煙開始行動の提案の検討	楠田しのぶ	看護部
産業ストレス研究 18(3):227-227 (2011年7月)	私と産業ストレス:研究の視点	堤 明純	産業医実務研修センター
ストレス科学 26(1):65-77 (2011年7月)	職場ストレス対策の一次予防:内外の動向	堤 明純	産業医実務研修センター
J. Occup. Health 53(5):371-376 (2011年9月)	Psychiatric Knowledge and Skills Required of Occupational Physicians:Priorities in the Japanese Setting	Tsutsumi, A.	産業医実務研修センター
人事労務実務のQ&A 14:6-11 (2011年9月)	従業員の健康資本増進への費用と効果を可視化	森 晃爾	産業医実務研修センター
公衆衛生情報 41(7):24-27 (2011年10月)	福島第一原発の復旧作業にあたる労働者の健康保持のための取り組み	森 晃爾	産業医実務研修センター
産業衛生学会雑誌 53(6):211-219 (2011年11月)	外資系企業の労働衛生・健康管理活動に関する実態調査	丸山 崇	産業医実務研修センター
Occup Environ Med 69:453-454 (2011年11月)	Suboptimal radiation protection for municipal employees operating in the Fukushima designated zone	Yokokawa, T.	産業医実務研修センター

10件

340件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Behavioral Medicine 18(4):293-294 (2011年12月)	Occupational Health	Tsutsumi, A.	産業医実務研修センター
ISIS 1:51-54 (2011年9月)	Automatic Detection Method for Candidate Regions of Lung Nodule from the Temporal Subtraction Images.	Murakami, S.	放射線部
Pharma Medica 29(3)47-50 (2011年3月)	腹膜透析療法と非嚢性腹膜硬化症	田村 雅仁	腎センター
腎と透析 71:39-40 (2011年9月)	非グルコース透析液(イコデキストリン)の生体適合性	田村 雅仁	腎センター
腹膜透析2011:71巻 別冊:39-40 (2011年9月)	CAVA semi-long catheter seriesの注・排液性能(時間・速度)の検討	田村 雅仁	腎センター

5件

345件

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	松本 哲朗
管理担当者氏名	医療情報部長 松田 晋哉、放射線部長 興梠 征典 看護部長 小竹 友子、薬剤部長 高橋 浩二郎 病院管理課長 井手 真次、医事課長 濱田 稔

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴室 薬剤部 放射線部 看護部 各診療科外来 病院管理課	月別にて電子カルテ及びそれぞれの部署にてファイル形式において、管理している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
	高度の医療の提供の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部及び病院管理課	毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
に掲げる	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況		
体制の	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
確保の			
状況			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 西岡 隼人
閲覧担当者氏名	病院管理課長 井手 真次、病院管理課課長代理 土井 四郎
閲覧の求めに応じる場所	診療情報等閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	78.8%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		13,728人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,133人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,243
	D: 初診の患者の数		21,706

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 安全管理に関する基本的考え方 安全管理のための委員会に関する基本的事項等	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 27 回
(医療安全対策委員会12回、医療事故防止委員会15回)	
・ 活動の主な内容： 1) 医療安全対策の検討に関すること。 2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること。 3) 医療安全対策並びに医療事故防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 47 回
・ 研修の主な内容： 1) 医療安全対策に関すること。 2) 医療事故防止に関すること。 3) 医薬品安全使用に関すること。 4) 医療機器安全使用に関すること。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容： ＜平成23年度＞ 1) 全てのレーザーを使用する医療機器については、実施前に、試し打ち（空打ち）を行う 2) 患者の「観察」の定義の見直し 3) 装具ケアの手順にオルソカラーを追加 4) 骨折のリスクが高い患者には、ヒッププロテクター等傷害軽減用具を使用する 5) 精神科病棟における抑制に関する基準の作成(評価の頻度等)及び体幹拘束帯の使用手順の作成 6) 砕石位手術の手順書に「2時間ごとの体位確認」を明記 7) 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症の対応策、リスクレベル別予防法等の見直し 8) 経管栄養チューブに関するマニュアルの見直し 9) 気管カニューレ(スピーチカニューレ含む)に関する使用マニュアルの整備 10) スピーチカニューレを装着した患者の看護マニュアルの作成 11) 小児の胃瘻チューブの留置は、必ず、造影、カメラ、CT のいずれかを使用して確認する 12) 危険予知用具手順書の作成 13) ポケット医療安全マニュアル第 6 版の発行 14) 必要に応じた医療安全対策マニュアルの改訂	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (2名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (3名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④ ・ 無
<p>・ 所属職員：</p> <p>医療安全管理部 専任 (2) 名 兼任 (6) 名 専任：医療安全管理者 (1名) 、看護師 (1名) 兼任：部長 (1名) 、医薬品安全管理責任者 (1名) 、医療機器安全管理者 (1名) 、 医師 (3名)</p> <p>感染制御部 専任 (3) 名 兼任 (6) 名 (専任：感染制御担当医師 (1名) 病院感染対策者 (1名) 感染制御担当職員 (1名) 兼任：部長 (1名) 感染制御担当医師 (1名) 感染制御担当職員 (4名))</p> <p>※医療安全対策にかかる事務部門：病院事務部病院業務課 (4名)</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 委員会で用いられる資料の作成に関する事。 2) 医療事故及び病院感染に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関する事。 3) 患者や家族への説明など医療事故及び病院感染発生時の対応状況についての確認及び指導に関する事。 4) 医療事故及び病院感染の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関する事。 5) 医薬品に係る安全管理及び使用に関する事。 6) 医療機器に係る保守点検及び安全使用に関する事。 7) 医療安全対策に係る連絡調整に関する事。 8) その他医療安全対策の推進に関する事。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④ ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：本院では、医療にかかわる安全管理の指針と一体的に策定している。<ul style="list-style-type: none">① 医療安全対策・病院感染防止に関する基本的考え方② 医療安全対策・病院感染防止の為に委員会に関する基本的事項等③ 標準予防策＋感染経路別予防策等感染防止対策各論	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 29 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：医療安全対策委員会12回、病院感染防止委員会17回<ul style="list-style-type: none">① 医療安全対策の検討及び研究② 病院感染の分析及び再発防止策の検討に関すること。③ 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 手指衛生を見直す。② 手洗いの重要性と周知徹底③ VRE感染対策④ 流行性感染症対策	
④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○・無)<ul style="list-style-type: none">① 感染制御部ニュースの発行にて広報② セーフティーマネージャー連絡会議を通じて広報③ 委員会を通じて広報・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 手洗い石鹸自動ポンプの順次設置② 病院職員の抗体価検査と予防接種の実施 (麻疹、水痘、風疹、ムンプス)③ 病院感染サーベイランスの実施④ 感染性廃棄物分別の徹底⑤ 抗菌薬適正使用セミナーの開催⑥ 携帯用速乾性手指消毒剤の導入⑦ 手洗れの少ない手洗い石鹸の採用⑧ より安全な注射針廃棄ボックスの採用⑨ CLABSIサーベイランスの実施⑩ 手指衛生周知状況確認書による手洗い状況確認の実施	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
・ 研修の主な内容： 1) 安全な薬物治療 2) ハイリスク薬 3) 麻薬 4) アナタの常識はワタシの常識ではない —情報伝達エラーを防止する— 5) 薬剤性糖尿病の特徴と血糖管理 6) 薬剤のインシデント・アクシデント事例	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (④・無) ・ 業務の主な内容： 1) 医薬品の採用 2) 医薬品の購入管理 3) 医薬品の管理 4) 与薬指示・調剤 5) 患者に対する与薬や服薬指導 6) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い (収集、提供) 7) 他施設との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (④・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 薬剤師による処方せん・注射せんの疑義照会 2) 薬剤師による病棟及び外来の院内ラウンドの実施 3) インスリン・スライディング・スケールの院内標準化 4) 危険薬の定義と危険薬のリスト作成 5) 医薬品安全使用のための業務手順チェックリストの作成 6) 持参薬の鑑定と初回面談 7) 薬歴ファイルに基づく化学療法処方監査の徹底 8) 入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 40回
・ 研修の主な内容： 1) 酸素療法 2) 心電図 3) モニタの安全管理 4) 人工呼吸器 5) シリンジポンプの演習 6) 救急処置とAED 7) 血液浄化 8) 閉鎖式保育器	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 1) 人工心肺装置及び補助循環装置 2) 人工呼吸器 3) 血液浄化装置 4) 除細動装置 5) 閉鎖式保育器 6) 診療用高エネルギー放射線発生装置 7) 診療用放射線照射装置	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 医療機器安全管理ワーキングの開催 2) 医療機器に関する情報の収集 3) 収集した医療事故等の情報を医療安全情報により院内に周知	